作成日：２０２３年　６月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

TCPLink
日本語 5250 エミュレータ
Ver.5.06-00
リリースメモ

作成日：２０２３年　６月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

Windows および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.5.06-00 での変更内容]..... 1

[Ver.5.06-00 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	以下の OS に対応 ・Windows Server 2022 Standard ・Windows Server 2022 Datacenter	機能追加	システム全般
2	以下の OS を動作対象から削除 ・Windows 8.1 Pro (x86, x64) ・Windows 8.1 Enterprise (x86, x64)	仕様変更	システム全般
3	以下の OS を動作対象から削除 ・Windows Server 2012 Standard ・Windows Server 2012 Datacenter ・Windows Server 2012 R2 Standard ・Windows Server 2012 R2 Datacenter	仕様変更	システム全般
4	ディスプレイセッションへの貼り付け時の動作を IBM 社製端末エミュレータ互換にする機能を追加 本機能は、エミュレータのプロパティ「ソフトウェアスイッチ"Switch (140)"」で設定可能	機能追加	ディスプレイセッション
5	IBM 社製端末エミュレータとの互換性向上のため、プリンタのプロパティ「印刷開始イベント」の初期値を変更 変更前「フォームフィード」 ↓ 変更後「印刷ジョブ完了」	仕様変更	プリンタセッション
6	コードテーブル設定で 1 つのホストコードに対して複数の PC コード、1 つの PC コードに対して複数のホストコードの割り当てが行えるように対応	機能追加	ツール

No	概要	VerUp 区分	変更区分
7	スタイル設定でディスプレイセッションのツールバーのスタイルを変更した直後、縦方向に 1 つのツールしか表示されない現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
8	複数の EHLLAPI アプリケーションを同時に使用した場合、「Connect Presentation Space(1)」関数からエラーの戻りコードが返ることがある現象を修正	バグ修正	API 機能
9	複数の EHLLAPI アプリケーションを同時に使用した場合、EHLLAPI のトレース出力処理で応答がなくなることがある現象を修正	バグ修正	API 機能
10	ホストからシステムロック解除データを連続して受信中に EHLLAPI の「Copy Presentation Space To String(8)」関数が呼び出された場合、データが取得されていないにも関わらず、正常の戻りコードが返ることがある現象を修正	バグ修正	API 機能
11	デバイス名の設定に特殊文字やキーワードを使用した場合、ホストリンクエクスプローラにディスプレイセッションのデバイス名が正しく表示されない現象を修正	バグ修正	ネットワーク
12	エミュレータのプロパティのオンラインヘルプの誤記を修正	バグ修正	ヘルプ

No.7	スタイル設定でディスプレイセッションのツールバーのスタイルを変更した直後、縦方向に 1 つのツールしか表示されない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・ディスプレイセッションで、ツールバーをボタンが縦に並ぶように配置 ・スタイル設定でディスプレイセッションのツールバーのボタンを追加、または削除
障害内容	表示されていないツールをツールバーから起動できない。
アップデート未実施時の回避策	ディスプレイセッションで、ツールバーをボタンが横に並ぶように配置する。

No.8	複数の EHLLAPI アプリケーションを同時に使用した場合、「Connect Presentation Space(1)」関数からエラーの戻りコードが返ることがある現象を修正
発生条件	複数の EHLLAPI アプリケーションを同時に使用中に、ある EHLLAPI アプリケーションでの EHLLAPI ライブラリのロードと別の EHLLAPI アプリケーションでの EHLLAPI ライブラリの解放のタイミングが重なった場合。
障害内容	「Connect Presentation Space(1)」関数からエラーの戻りコードが返るため、EHLLAPI アプリケーションが正常に動作しない。
アップデート未実施時の回避策	複数の EHLLAPI アプリケーション使用時、起動と終了のタイミングが重ならないようにする。

No.9	複数の EHLLAPI アプリケーションを同時に使用した場合、EHLLAPI のトレース出力処理で応答がなくなることがある現象を修正
発生条件	複数の EHLLAPI アプリケーションを同時に使用中に、ある EHLLAPI アプリケーションでの EHLLAPI ライブラリのロードと別の EHLLAPI アプリケーションでの EHLLAPI ライブラリの解放のタイミングが重なった場合。
障害内容	EHLLAPI アプリケーションが応答しなくなる。 その後、エミュレータ保守が起動できなくなる。
アップデート未実施時の回避策	複数の EHLLAPI アプリケーション使用時、起動と終了のタイミングが重ならないようにする。

No.10	ホストからシステムロック解除データを連続して受信中に EHLLAPI の「Copy Presentation Space To String(8)」関数が呼び出された場合、データが取得されていないにも関わらず、正常の戻りコードが返ることがある現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・ホストからシステムロック解除データを連続して受信中のディスプレイセッションに対して「Copy Presentation Space To String(8)」関数を呼び出し ・ディスプレイセッションのプレゼンテーション領域へのアクセスで他の処理と競合が発生
障害内容	「Copy Presentation Space To String(8)」関数から正常の戻りコードが返るが、データが取得されていないため、EHLLAPI アプリケーションが正常に動作しない。
アップデート未実施時の回避策	EHLLAPI アプリケーションで「Copy Presentation Space To String(8)」関数の呼び出し前に、「Wait(4)」関数を呼び出して、関数呼び出しの間隔を空ける。

No.11	デバイス名の設定に特殊文字やキーワードを使用した場合、ホストリンクエクスプローラにディスプレイセッションのデバイス名が正しく表示されない現象を修正
発生条件	デバイス名の設定に特殊文字やキーワードを使用している場合。
障害内容	ホストリンクエクスプローラに表示されるディスプレイセッションのデバイス名が実際のデバイス名と異なる。 ディスプレイセッションの利用自体に問題はない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.12	エミュレータのプロパティのオンラインヘルプの誤記を修正
変更内容	バックアップ接続時のデバイス名の説明を特殊文字やキーワードの使用を考慮した説明に修正。
参照先	「エミュレータのプロパティ」－「通信設定」－「セッション設定」－「バックアップ接続」

作成日：２０２２年　８月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

TCPLink
日本語 5250 エミュレータ
Ver.5.05-01
リリースメモ

目次

[Ver.5.05-01 での変更内容]..... 1

[Ver.5.05-01 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	Ver.5.05-00 で公開されている「ソフトウェアスイッチ」設定のうち No.147 において、機能に制限事項があるため、機能の初期値を OFF にするとともにその機能を非公開に変更	仕様変更	ツール

作成日：２０２２年　４月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

TCPLink
日本語 5250 エミュレータ
Ver.5.05-00
リリースメモ

作成日：２０２２年　４月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

Microsoft、Windows、Windows Server および Excel は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.5.05-00 での変更内容]..... 1

[Ver.5.05-00 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	以下の OS に対応 • Windows 11 Pro • Windows 11 Enterprise	機能追加	システム全般
2	以下の OS を動作対象から削除 • Windows 7 Professional SP1 (x86, x64) • Windows 7 Enterprise SP1 (x86, x64) • Windows 7 Ultimate SP1 (x86, x64)	仕様変更	システム全般
3	編集形式「Windows プリンタドライバ」の場合、フォントサイズを拡大できる機能を追加	機能追加	プリンタ セッション
4	エミュレータのプロパティ「プリンタ定義」-「詳細設定」-「印刷開始イベント」の「印刷ジョブ完了」がチェックされている場合、特定データ受信で印刷ジョブをクローズする機能を追加 ※特定データとは RFC2877 で公開されている「Null Print Record」のことを指します。	機能追加	プリンタ セッション
5	編集形式「印刷コマンドファイル」で SCS ASCII 透過 (ATRN)コマンドをサポート	機能追加	プリンタ セッション
6	データ転送パネル（受信）の「データ・オプション」-「受信要求詳細」の設定で２項目以上のフィールド名を選択した場合、自動的にカンマを補完する機能を追加	機能追加	データ転送
7	マクロ再生の開始、およびマクロ記録の開始時に、前回指定したフォルダを開く仕様に変更	仕様変更	マクロ

No	概要	VerUp 区分	変更区分
8	ホストコード（0xE9F3、0xE9F4、0xE9F5）を受信した場合、全角スペースで画面表示／印刷／データ転送される現象を修正	バグ修正	システム全般
9	プリントジョブスケジューラの起動に失敗した場合、イベントログが出力されない現象を修正	バグ修正	システム全般
10	「SHIFT」+「F1」キーの押下で状況依存ヘルプを表示した場合、対象をクリック時に「応答なし」になる現象を修正	バグ修正	システム全般
11	特定の画面を表示した場合、ディスプレイセッションがフリーズする現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
12	エミュレータ画面に Excel ファイルからデータを貼り付けて送信した場合、ホスト側プログラムでエラーが発生することがある現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
13	「入力不可」状態で「ATTN」キーを押下した場合、「入力不可」状態が解除される現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
14	自動送信フィールドで「Field Exit」キー、または「Field＋」キーを押下した場合、カーソルが移動せず、「入力不可」となる現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
15	ローカルコピー時にエラーが発生した場合、「セッション番号：0」の余計なイベントログが出力される現象を修正	バグ修正	ローカルコピー

No	概要	VerUp 区分	変更区分
16	プリントジョブスケジューラの起動に失敗した場合、プリンタセッションにエラーメッセージ「プリントジョブスケジューラ起動に失敗しました」が表示されない現象を修正	バグ修正	プリンタセッション
17	印刷コマンドファイル(PDF)による印刷で印刷位置ずれ、印刷抜けなどが発生する現象を修正	バグ修正	プリンタセッション
18	データ転送（受信）で、出力先をディスプレイに設定している場合、データ転送パネルがアプリケーションエラーになることがある現象を修正	バグ修正	データ転送
19	データ転送（受信）で、数値フィールドの小数部が 0 の場合、小数点が出力されない現象を修正	バグ修正	データ転送
20	データ転送（受信）で、受信ファイル名に存在しないフォルダの Excel ファイルを指定した場合、転送開始時にファイル作成の失敗とならない現象を修正	バグ修正	データ転送
21	データ転送（受信）で、 Excel ファイルの転送中に別の Excel ファイルを開き編集したり、Excel ファイルを保護ビューで開くと、データ転送が異常終了する、または受信中の Excel ファイルが作成されない現象を修正	バグ修正	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
22	データ転送（送信）で、 Excel ファイルの転送中に別の Excel ファイルを保護ビューで開くとデータ転送が異常終了する場合がある現象を修正	バグ修正	データ転送
23	コマンドラインでのデータ転送（送信）で、送信失敗時の送信中止メッセージに不正なレコード数が表示される現象を修正	バグ修正	データ転送
24	マクロコマンドのヘルプで、リターンコードに関する誤解を招く記述を修正	バグ修正	ヘルプ
25	マクロコマンドのヘルプで、「if コマンド」に関する記述に誤りのある箇所を修正	バグ修正	ヘルプ
26	マクロコマンドのヘルプで、「timeout コマンド」のリターンコードに関する記述に誤りのある箇所を修正	バグ修正	ヘルプ

No.8	ホストコード（0xE9F3、0xE9F4、0xE9F5）を受信した場合、全角スペースで画面表示／印刷／データ転送される現象を修正
発生条件	ホストコード：0xE9F3("ー")、0xE9F4("～")、0xE9F5("¦")を含むデータを画面表示／印刷／データ転送した場合。
障害内容	対象の文字が全角スペースで画面表示／印刷／データ転送される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.9	プリントジョブスケジューラの起動に失敗した場合、イベントログが出力されない現象を修正
発生条件	プリントジョブスケジューラの起動に失敗した場合。
障害内容	イベントログが出力されない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.10	「SHIFT」+「F1」キーの押下で状況依存ヘルプを表示した場合、対象をクリック時に「応答なし」になる現象を修正
発生条件	「SHIFT」+「F1」キーの押下により、マウスカーソルに「?」が表示された状態で、状況依存ヘルプの表示対象をクリックした場合。
障害内容	以下のプログラムがフリーズする。 ・「プリンタセッション」 ・「プリントジョブスケジューラ」 ・「マクロコントローラ」 ・「UPF 設定」
アップデート未実施時の回避策	ツールバーの「↑? (ヘルプ)」ボタンを使用して状況依存ヘルプを表示する。

No.11	特定の画面を表示した場合、ディスプレイセッションがフリーズする現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・範囲指定の情報消去オーダー(ERASE TO ADDRESS)で SA 属性をクリアする画面データを受信 ・上記クリア位置に DDS の WINDOW キーワードで指定されたウィンドウを表示する画面データを受信
障害内容	ディスプレイセッションが応答なしとなり、当該ディスプレイセッションだけでなく、他のディスプレイセッション、プリンタセッションでも業務続行が不可能となる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.12	エミュレータ画面に Excel ファイルからデータを貼り付けて送信した場合、ホスト側プログラムでエラーが発生することがある現象を修正
発生条件	エミュレータ画面に復帰コード(0x0D)や改行コード(0x0A)を含むデータを貼り付けて、ホストに送信した場合。
障害内容	エミュレータ画面に復帰コード(0x0D)や改行コード(0x0A)が入力されてホストに送信される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.13	「入力不可」状態で「ATTN」キーを押下した場合、「入力不可」状態が解除される現象を修正
発生条件	「実行」キーなどでの送信中に「ATTN」キーを押下した場合。
障害内容	「入力不可」状態が解除されるため、送信中に入力できてしまう。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.14	自動送信フィールドで「Field Exit」キー、または「Field＋」キーを押下した場合、カーソルが移動せず、「入力不可」となる現象を修正
発生条件	自動送信フィールドで「Field Exit」キー、または「Field＋」キー押下により自動送信を行った場合。
障害内容	自動送信時のカーソル位置が実機と異なるデータで送信される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.15	ローカルコピー時にエラーが発生した場合、「セッション番号：0」の余計なイベントログが出力される現象を修正
発生条件	ローカルコピー時にエラーが発生した場合。
障害内容	「セッション番号：0」の余計なイベントログが出力される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.16	プリントジョブスケジューラの起動に失敗した場合、プリンタセッションにエラーメッセージ「プリントジョブスケジューラ起動に失敗しました」が表示されない現象を修正
発生条件	プリントジョブスケジューラの起動に失敗した場合。
障害内容	プリンタセッションにエラーメッセージ「プリントジョブスケジューラ起動に失敗しました」が表示されない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.17	印刷コマンドファイル(PDF)による印刷で印刷位置ずれ、印刷抜けなどが発生する現象を修正
発生条件	編集形式「印刷コマンドファイル」で印刷を行った場合。
障害内容	印刷位置ずれ、印刷抜けなどが発生し、正常に印刷されない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.18	データ転送（受信）で、出力先をディスプレイに設定している場合、データ転送パネルがアプリケーションエラーになることがある現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・受信の出力先に「ディスプレイ」を設定 ・転送ファイルのバイト数より、ディスプレイに表示する文字数（フィールド）が超える場合
障害内容	データ転送の受信ができない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.19	データ転送（受信）で、数値フィールドの小数部が 0 の場合、小数点が出力されない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送（受信） ・ファイルタイプ「BASIC 順次」 ・数値フィールドの小数部が 0 の場合
障害内容	小数点が出力されない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.20	データ転送（受信）で、受信ファイル名に存在しないフォルダの Excel ファイルを指定した場合、転送開始時にファイル作成の失敗とならない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送（受信） ・ファイルタイプ「Microsoft Excel 97-2003(.xls)」、または「Microsoft Excel(.xlsx)」 ・受信ファイル名に存在しないフォルダの Excel ファイルを指定
障害内容	受信開始時にファイル作成の失敗とならず転送を行い、転送途中にファイル保存確認が表示される。
アップデート未実施時の回避策	受信ファイル名に正しいフォルダ名を指定する。

No.21	データ転送（受信）で、 Excel ファイルの転送中に別の Excel ファイルを開き編集したり、Excel ファイルを保護ビューで開くと、データ転送が異常終了する、または受信中の Excel ファイルが作成されない現象を修正
発生条件	Excel 形式のファイルを受信中に別の Excel ファイルを開く、またはデータ転送開始前に Excel ファイルを開いた場合。
障害内容	Excel 形式での受信ができない。または Excel 形式の受信ファイルが作成されない。
アップデート未実施時の回避策	Excel 形式のファイルを受信中に、Excel を起動しない。

No.22	データ転送（送信）で、 Excel ファイルの転送中に別の Excel ファイルを保護ビューで開くとデータ転送が異常終了する場合がある現象を修正
発生条件	Excel 形式のファイルを送信中に、別の Excel ファイルを保護ビューで開いた場合。
障害内容	Excel 形式のファイルが送信できない。
アップデート未実施時の回避策	Excel 形式のファイルを送信中に、Excel を起動しない。

No.23	コマンドラインでのデータ転送（送信）で、送信失敗時の送信中止メッセージに不正なレコード数が表示される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・コマンドラインでのデータ転送（送信） ・ファイルタイプ「SYLK 形式」 ・数値型フィールドに最大値を超える数値が指定されている
障害内容	送信失敗時の送信中止メッセージ表示で、レコード数が 0 とならずレコード数が表示される。
アップデート未実施時の回避策	送信中止メッセージのレコード数は無視する。

No.24	マクロコマンドのヘルプで、リターンコードに関する誤解を招く記述を修正
変更内容	リターンコード 誤：TRUE 　　FALSE 正：true (0) 　　false (0 以外)
参照先	「オンラインヘルプ」－「5250 マクロコマンド」

No.25	マクロコマンドのヘルプで、「if コマンド」に関する記述に誤りのある箇所を修正
変更内容	形式 誤：if prognnn 正：(削除) 機能 誤：if prognnn　　プログラムチェック表示状態かをチェックします。 正：(削除)
参照先	「オンラインヘルプ」－「5250 マクロコマンド」－「if コマンド」

No.26	マクロコマンドのヘルプで、「timeout コマンド」のリターンコードに関する記述に誤りのある箇所を修正
変更内容	リターンコード 誤：TRUE　　成功 　　FALSE　　失敗 正：なし
参照先	「オンラインヘルプ」－「5250 マクロコマンド」－「timeout コマンド」

作成日：２０１９年１２月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

TCPLink
日本語 5250 エミュレータ
Ver5.04-03
リリースメモ

作成日：２０１９年１２月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

Microsoft、Windows、Windows Server および Excel は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.5.04-03 での変更内容]..... 1

[Ver.5.04-03 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	以下の OS に対応 • Windows Server 2019 Standard • Windows Server 2019 Datacenter	機能追加	システム全般
2	以下の OS を動作対象から削除 • Windows Server 2008 Standard SP2 • Windows Server 2008 Enterprise SP2 • Windows Server 2008 Datacenter SP2 • Windows Server 2008 R2 Standard SP1 • Windows Server 2008 R2 Enterprise SP1 • Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	仕様変更	システム全般
3	Windows イベントログ（Application）に、エミュレータシステムのイベントメッセージを出力する機能を追加 • 起動・終了 • 通信状態 • プリンタセッションのメッセージ情報 • コード変換エラー	機能追加	システム全般
4	バージョン情報に、アップデート情報としてパッチの管理番号を表示する機能を追加	機能追加	システム全般
5	エミュレータシステム（プロセス）が実行中の場合は、アンインストールできない仕様に変更	仕様変更	インストーラ／アンインストーラ
6	DDS で定義された以下の機能を強化 • プッシュボタン • ラジオボタン • チェックボックス • 縦スクロールバー	機能追加	ディスプレイセッション

No	概要	VerUp 区分	変更区分
7	ディスプレイセッションにデータを貼り付ける場合、カーソルを移動しない機能を追加 カーソル移動の有無はプロパティで設定可能 ※エミュレータのプロパティ「ソフトウェアスイッチ"Switch (43)"」が ON の場合、本機能は動作せず、カーソルは移動しない	機能追加	ディスプレイセッション
8	インストール時に、ツールバーの初期設定を変更 • 削除したボタン 「ファイル転送」、「ホットスポット設定」 • 追加したボタン 「データ転送-送信」、「データ転送-受信」 ※バージョンアップインストールでプロパティの設定を引き継ぐ場合は、既存のツールバー設定値を引き継ぎます。	仕様変更	ディスプレイセッション
9	画面モードが「カラー」の場合、明滅が指定されている文字を明滅する仕様に変更	仕様変更	ディスプレイセッション
10	データ転送（送信）で、オブジェクト作成「既存メンバーへの追加」機能を追加	機能追加	データ転送
11	データ転送（受信）で、ASCII テキスト受信時にレコード末尾のスペースを切り捨てる機能を追加 また、スペースを切り捨てる設定は、データ転送のプロパティで設定可能 新規インストール、およびバージョンアップインストール時の初期設定は、スペースを切り捨てないからスペースを切り捨てるに変更	機能追加	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
12	データ転送（受信）のコード変換仕様を変更 ホストコードの全角ハイフン（0xE9F3）を、全角スペースから全角ハイフン（シフト JIS 0x817C）に変換	仕様変更	データ転送
13	ディスプレイセッション、プリンタセッションの利用上限を、5 セッションから 10 セッションへ変更 （利用可能セッション数は最大 10 セッション）	仕様変更	ツール
14	エミュレータのプロパティ「通信設定」で、ゲートウェイ種別の選択内容を変更	仕様変更	ツール
15	マウスホイールの操作で、下記のエミュレータの機能キーを実行する機能を追加 • PF1～PF24 • SysRq • タブ、後退タブ • 実行 • ロールダウン、ロールアップ	仕様変更	ツール
16	インストール時に、保守機能「NET トレース」を採取するに初期設定を変更 ※バージョンアップインストールでプロパティの設定を引き継ぐ場合は、既存のトレース設定値を引き継ぎます。	仕様変更	ネットワーク
17	セッション確立を試行するデバイス名の重複を避けるため、デバイス名に特殊文字およびキーワード指定できる機能を追加	仕様変更	ネットワーク

No	概要	VerUp 区分	変更区分
18	エミュレータのプロパティ「ソフトウェアスイッチ」設定の一部の設定項目を公開（PDF 形式） また、インストール時のエミュレータのプロパティ「ソフトウェアスイッチ」設定の初期値を変更 ※バージョンアップインストールでプロパティの設定を引き継ぐ場合は、既存のソフトウェアスイッチ設定値を引き継ぎます。	仕様変更	マニュアル
19	インストール時、「設定の確認」画面の[戻る]ボタンで「ショートカットを選択」画面に戻った場合、「ショートカットを選択」画面でオフに変更していたチェックボックスがオンに戻る現象を修正	バグ修正	インストーラ／アンインストーラ
20	Windows のスタートアップに登録した場合、起動できないことがある現象を修正	バグ修正	ホストリンクエクスプローラ
21	前画面で漢字シフトオーダー(WRITE EXTENDED ATTRIBUTE)により漢字指定された画面位置の一部の文字が文字化け、または表示されない現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
22	符号付き数字フィールドの符号位置に半角空白文字が指定されている場合、データの最後に不要な半角空白文字を付加し、送信する現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
23	不要な縦罫線が表示される現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション

No	概要	VerUp 区分	変更区分
24	2 バイト文字位置に DDS の WINDOW キーワードで指定されたウィンドウを表示すると、ウィンドウの枠外にシフト文字（SI）が表示される現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
25	シフト文字（SO）位置にカーソル移動（IC）オーダーが指定されていると、入力可能な位置にカーソルが移動しない現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
26	START OF HEADER（SF）オーダーが 256 個以上指定された画面に文字入力できない現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
27	START OF HEADER（SF）オーダーが 256 個以上指定された画面で、ホストへデータ送信するとハングアップする現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
28	STARTPC コマンドの引数で指定された文字列に半角スペース文字が存在する場合、指定された実行コマンドが動作しないことがある現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
29	STARTPC コマンド実行時、非表示指定されている文字が画面に表示される現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
30	プリントジョブスケジューラから印刷、またはプレビューを行うと、印刷データの最終行の 4 バイト目が全角文字に文字化けする現象を修正	バグ修正	プリンタセッション

No	概要	VerUp 区分	変更区分
31	編集形式「印刷コマンドファイル」で、罫線指定（DGL）オーダーが指定された場合、罫線がDGL オーダー指定位置に印刷されない現象を修正	バグ修正	プリンタセッション
32	編集形式「印刷コマンドファイル」で、フォント・サイズ・スケール(SFSS)オーダーの標準文字サイズ指定が無視され、直前に指定されたSFSS オーダーの文字サイズ（縦倍角／横倍角／縦横倍角）で印刷される現象を修正	バグ修正	プリンタセッション
33	編集形式「印刷コマンドファイル」で、漢字文字ピッチ指定（SIT）オーダーを指定された場合、半角文字も漢字文字ピッチで印刷する現象を修正	バグ修正	プリンタセッション
34	編集形式「印刷コマンドファイル」で、１ページの印刷データがラストブロック（0xFFEF）を含む複数レコードで分割されると、ラストブロックで次行の１桁目に移動せず、直前の印刷桁から印刷することがある現象を修正	バグ修正	プリンタセッション
35	編集形式「印刷コマンドファイル」で、印刷ジョブ名の末尾に付加する連番が更新されず、同じ番号で出力される現象を修正	バグ修正	プリンタセッション
36	ジョブクローズタイマーが動作すると、プリンタセッションでアプリケーションエラーが発生する場合がある現象を修正	バグ修正	プリンタセッション

No	概要	VerUp 区分	変更区分
37	仮想環境で CPU リソースの割り当てが不足している場合、ダイレクト印刷、ローカルコピーを行うと印刷開始までに時間が掛かり、印刷速度が遅い現象を修正	バグ修正	プリンタ セッション ローカルコピー
38	データ転送（送信）で、ファイルタイプ「SYLK 形式」の１列のみのファイル、またはファイルタイプ「Microsoft Excel 97 - 2003(xls)」、「Microsoft Excel(.xlsx)」の１列かつ最終行に小数部があるファイルを送信した場合、アプリケーションエラーが発生する現象を修正	バグ修正	データ転送
39	データ転送（送信）で、先頭がゼロパディングされたデータを数値フィールドに送信した場合、数値フィールドの上限値で送信される現象を修正	バグ修正	データ転送
40	データ転送（送信）で、改行のみの行（レコード）を含むファイルが送信できない現象を修正	バグ修正	データ転送
41	データ転送（送信）で、省略可データ（空文字列）を NULL 値可能フィールドに送信すると、半角スペースで送信する現象を修正	バグ修正	データ転送
42	データ転送（送信）で、小数部を含む数値データを、小数部の桁数が指定されていないフィールドに送信すると、不正な値（0）で送信される現象を修正	バグ修正	データ転送
43	データ転送（受信）で、小数部が 2 桁以上で小数第一位の値がゼロの場合、不正な値で保存する現象を修正	バグ修正	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
44	データ転送パネルで送信または受信パネルに切り替えると、"不正な転送要求ファイルです。"メッセージが表示される現象を修正	バグ修正	データ転送
45	EHLLAPI の文字入力関数「SendKey(3)」で、全角文字／半角文字が混在する文字列を入力した場合、入力エラー「HARC_LOCKED(5)」とならない現象を修正	バグ修正	API 機能
46	「エミュレータのプロパティ」－「通信設定」－「接続先設定」画面の「メッセージ待ち行列名」、「ライブラリ名」設定に使用可能な半角文字が入力できない、または先頭に使用禁止の半角文字が入力できてしまう現象を修正	バグ修正	ツール
47	「エミュレータのプロパティ」－「プリンタ定義」－「詳細設定」画面の「用紙の種別」で「連続用紙」を選択時、「単票時の自動改ページ」が設定不可にならない現象を修正	バグ修正	ツール
48	コードテーブル設定で、PC コードの入力指定に”区点 JIS コード”を設定し文字コード変換の「登録」を行うと、登録確認メッセージに区点 JIS コードが正しく表示されない現象を修正	バグ修正	ツール

No	概要	VerUp 区分	変更区分
49	UPF 設定ツールで以下の設定を変更後に、インストール後から変更されていない「UPFTBL32.UPF」ファイルを読み込むと、読み込み前の設定内容が表示されたままになる現象を修正 • コメント欄 • UPF 使用数 • UPF パッドオートサイジング • UPF パッドコメント表示	バグ修正	ツール
50	データ転送設定で、接続先定義のサインオン設定に「指定したユーザ ID とパスワードを使用する」が設定されている場合、接続先定義が更新できない現象を修正	バグ修正	ツール

No.19	インストール時、「設定の確認」画面の[戻る]ボタンで「ショートカットを選択」画面に戻った場合、「ショートカットを選択」画面でオフに変更していたチェックボックスがオンに戻る現象を修正
発生条件	以下の操作を行った場合。 ①「ショートカットの選択」画面でチェックボックスをオフに変更 ②「設定の確認」画面に遷移 ③「ショートカットの選択」画面に戻る
障害内容	「ショートカットの選択」画面でオフに変更していたチェックボックスがオンに戻る。
アップデート未実施時の回避策	「ショートカットの選択」画面で設定内容を再設定する。

No.20	Windows のスタートアップに登録した場合、起動できないことがある現象を修正
発生条件	Windows のスタートアップにホストリンクエクスプローラまたはセッション起動のショートカットを登録した場合。
障害内容	Windows のログオン時に自動起動ができない。
アップデート未実施時の回避策	手動による起動。

No.21	前画面で漢字シフトオーダー(WRITE EXTENDED ATTRIBUTE)により漢字指定された画面位置の一部の文字が文字化け、または表示されない現象を修正
発生条件	前画面で漢字シフトオーダー(WRITE EXTENDED ATTRIBUTE)により漢字指定された画面位置に対し、上書きで漢字イン・アウト（SO/SI）属性指定の全角文字を受信した場合。
障害内容	一部の文字が文字化け、または表示されない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.22	符号付き数字フィールドの符号位置に半角空白文字が指定されている場合、データの最後に不要な半角空白文字を付加し、送信する現象を修正
発生条件	以下の機能キーで符号付き数字フィールドから移動した場合。 ・Er Inp ・Er EOF ・Field Exit ・Field + ・Field -
障害内容	符号付き数字フィールドデータの最後に、不要な半角空白文字を付加して送信する。
アップデート未実施時の回避策	符号付きフィールドの符号位置をスペース以外でクリアする機能キー（以下）でフィールドを脱出し送信する。 ・Er Inp ・Er EOF ・Field Exit ・Field + ・Field -

No.23	不要な縦罫線が表示される現象を修正
発生条件	シフト文字（SO/SI）を伴わない漢字シフトオーダーが含まれる画面上に、DDS 罫線の追加または消去を指定。
障害内容	縦罫線指定が無い位置に罫線が表示される。 2 バイト文字位置に縦罫線が表示される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.24	2 バイト文字位置に DDS の WINDOW キーワードで指定されたウィンドウを表示すると、ウィンドウの枠外にシフト文字（SI）が表示される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・ディスプレイのプロパティで、［詳細設定］－［SO,SI 文字表示］をオン ・画面位置を占有しない漢字シフトオーダー（12 オーダー）を伴う 2 バイト文字のデータを受信 ・上のデータ受信後、2 バイト文字位置に DDS ウィンドウ枠が重なるデータを受信
障害内容	シフト文字（SI）が表示される。
アップデート未実施時の回避策	ディスプレイのプロパティで、［詳細設定］－［SO,SI 文字表示］をオフにする。

No.25	シフト文字（SO）位置にカーソル移動（IC）オーダーが指定されていると、入力可能な位置にカーソルが移動しない現象を修正
発生条件	シフト文字（SO）位置にカーソル移動（IC）オーダーを指定されている場合。
障害内容	入力可能な位置にカーソルが表示されない。 ※文字入力すると入力可能位置にカーソルを移動し、文字が入力される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.26	START OF HEADER（SF）オーダーが 256 個以上指定された画面に文字入力できない現象を修正
発生条件	START OF HEADER（SF）オーダーが 256 個以上指定された画面の場合。
障害内容	文字入力ができない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.27	START OF HEADER（SF）オーダーが 256 個以上指定された画面で、ホストへデータ送信するとハングアップする現象を修正
発生条件	START OF HEADER（SF）オーダーが 256 個以上指定された画面の場合。
障害内容	ディスプレイセッションがハングアップするため以降の操作ができない。復旧するには PC の再起動が必要となる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.28	STARTPC コマンドの引数で指定された文字列に半角スペース文字が存在する場合、指定された実行コマンドが動作しないことがある現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・STARTPC コマンドで指定されるパラメータの先頭に、「START」のような、コマンド・プロンプトを起動する Windows の Shell コマンドを指定 ・指定コマンドの引数に、半角スペースで区切られた文字列を指定
障害内容	STARTPC コマンドで指定された実行コマンドが動作しない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.29	STARTPC コマンド実行時、非表示指定されている文字が画面に表示される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・STARTPC コマンドを CL プログラムから実行 ・WRITE 系コマンドを含むホストデータと、STARTPC コマンドのホストデータがディスプレイセッションに連続して通知
障害内容	ディスプレイセッションに以下のメッセージが表示されることがある。 「必要な PC プログラム(PCO.EXE)が活動状態になっていません。PC と通信することはできません。再開始するためには，実行キーを押してください。」 STARTPC コマンド自体は問題無く実行される。
アップデート未実施時の回避策	STARTPC コマンドを CL プログラムから呼び出さず、ディスプレイセッションから直接実行する。

No.30	プリントジョブスケジューラから印刷、またはプレビューを行うと、印刷データの最終行の 4 バイト目が全角文字に文字化けする現象を修正
発生条件	プリントジョブスケジューラを使用しての印刷、またはプレビューで、以下のいずれかの条件を満たしている場合。 ・印刷データの最終行の 4 バイト目が空白以外の半角文字 ・印刷データの最終行の 4 バイト目が空白の半角文字で、5 バイト目が空白以外の半角文字 ・印刷データの最終行の 4 バイト目が空白の半角文字で、5 バイト目が空白以外の全角文字
障害内容	一部の半角文字が全角文字に文字化けする。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.31	編集形式「印刷コマンドファイル」で、罫線指定（DGL）オーダーが指定された場合、罫線が DGL オーダー指定位置に印刷されない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・編集形式「印刷コマンドファイル」で、5577、ESC/P の印刷コマンドファイルが設定されている ・複数行に罫線印刷するデータを受信
障害内容	罫線が DGL オーダー指定位置に印刷されない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.32	編集形式「印刷コマンドファイル」で、フォント・サイズ・スケール(SFSS)オーダーの標準文字サイズ指定が無視され、直前に指定された SFSS オーダーの文字サイズ（縦倍角／横倍角／縦横倍角）で印刷される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・編集形式「印刷コマンドファイル」で、5577、ESC/P の印刷コマンドファイルが設定されている ・標準文字サイズ指定の直前に、縦倍角／横倍角／縦横倍角が指定されている
障害内容	標準文字サイズが、直前に指定されている文字サイズ（縦倍角／横倍角／縦横倍角）で印刷される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.33	編集形式「印刷コマンドファイル」で、漢字文字ピッチ指定（SIT）オーダーを指定された場合、半角文字も漢字文字ピッチで印刷する現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・編集形式「印刷コマンドファイル」で、5577、ESC/P の印刷コマンドファイルが設定されている ・漢字文字ピッチ指定による複数行の印刷
障害内容	半角文字が漢字文字ピッチで印刷される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.34	編集形式「印刷コマンドファイル」で、１ページの印刷データがラストブロック（0xFFEF）を含む複数レコードで分割されると、ラストブロックで次行の１桁目に移動せず、直前の印刷桁から印刷することがある現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・編集形式「印刷コマンドファイル」で、5577、ESC/P の印刷コマンドファイルが設定されている ・直前のラストブロックで印字桁位置が先頭でない場合に、次のラストブロックを受信
障害内容	次行の 1 桁目に印刷されず、直前の行の印刷桁から印刷されるため、ラストブロック印刷データのブロック（0xFFEF）単位で、不要な出力位置指定を行うため、印刷結果がずれる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.35	編集形式「印刷コマンドファイル」で、印刷ジョブ名の末尾に付加する連番が更新されず、同じ番号で出力される現象を修正
発生条件	編集形式「印刷コマンドファイル」を設定している場合。
障害内容	同じ印刷ジョブ名で出力される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.36	ジョブクローズタイマーが動作すると、プリンタセッションでアプリケーションエラーが発生する場合がある現象を修正
発生条件	ホストからの印刷データが複数レコードで分割され、印刷データ待ち状態となりジョブクローズタイマーが動作した場合。
障害内容	アプリケーションエラーが発生し印刷できない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.37	仮想環境で CPU リソースの割り当てが不足している場合、ダイレクト印刷、ローカルコピーを行うと印刷開始までに時間が掛かり、印刷速度が遅い現象を修正
発生条件	仮想環境の CPU リソース割り当てが不足している場合。
障害内容	ダイレクト印刷、ローカルコピーを行うと印刷開始までに時間が掛かり、印刷速度が遅い。
アップデート未実施時の回避策	CPU リソースの割り当てを増やす。

No.38	データ転送（送信）で、ファイルタイプ「SYLK 形式」の 1 列のみのファイル、またはファイルタイプ「Microsoft Excel 97 - 2003(xls)」、「Microsoft Excel(.xlsx)」の 1 列かつ最終行に小数部があるファイルを送信した場合、アプリケーションエラーが発生する現象を修正
発生条件	以下のいずれかの条件を満たしている場合。 ・ファイルタイプが、SYLK 形式で 1 列のファイルを送信 ・ファイルタイプが、Microsoft Excel 97 - 2003(xls)、または Microsoft Excel(.xlsx)で、1 列かつ最終行のセルに小数部があるファイルを送信
障害内容	・アプリケーションエラー（dtrnmain.dll）が発生し、ファイルタイプ「SYLK 形式」のファイルが送信できない ・アプリケーションエラー（oleaut32.dll）が発生し、ファイルタイプ「Microsoft Excel 97 - 2003(xls)」、「Microsoft Excel(.xlsx)」のファイルが送信できない
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.39	データ転送（送信）で、先頭がゼロパディングされたデータを数値フィールドに送信した場合、数値フィールドの上限値で送信される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送の送信を実行 ・ファイルタイプが、CSV 形式、BASIC 順次、SYLK 形式、タブ区切りテキスト、Microsoft Excel 97 - 2003(xls)、Microsoft Excel(.xlsx)のいずれか ・ホストのフィールドが DECIMAL(PACKED DECIMAL)、NUMERIC(ZONED DECIMAL)のいずれか ・ホストのフィールドに入る桁数より、先頭がゼロパディングされた文字列の桁数(※1）が大きい ※1 小数点、符号などを除く数字のみの桁数
障害内容	NUMERIC で定義されているフィールド桁数の上限値で送信される。 例> フィールドが 6 桁の場合。 ホストのフィールドが 6 桁の NUMERIC で定義されているフィールドに対し、CSV ファイル中の「00004930」を送信すると、6 桁数値の上限値である「999999」で送信される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.40	データ転送（送信）で、改行のみの行（レコード）を含むファイルが送信できない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送の送信を実行 ・ファイルタイプが、CSV 形式、BASIC 順次、タブ区切りテキストのいずれか ・送信対象のファイルが、改行のみの行(レコード)を含む
障害内容	データ転送(送信)で、「PC ファイルに誤りがあります」のエラーメッセージが表示され、送信できない。
アップデート未実施時の回避策	送信対象のファイルから改行のみの行(レコード)を含むを取り除く。

No.41	データ転送（送信）で、省略可データ（空文字列）を NULL 値可能フィールドに送信すると、半角スペースで送信する現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送の送信を実行 ・ファイルタイプが、CSV 形式、BASIC 順次、タブ区切りテキスト、Microsoft Excel 97 - 2003(xls)、Microsoft Excel(.xlsx)のいずれか ・送信対象のファイルに、省略可能なデータ（空文字列）を含む ・ホスト側が NULL 値可能フィールド
障害内容	半角スペースが送信される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.42	データ転送（送信）で、小数部を含む数値データを、小数部の桁数が指定されていないフィールドに送信すると、不正な値（0）で送信される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送の送信を実行 ・ファイル形式が、CSV 形式、BASIC 順次、SYLK 形式、タブ区切りテキスト、Microsoft Excel 97 - 2003(xls)、Microsoft Excel(.xlsx)のいずれか ・10 桁以上の DECIMAL/NUMERIC フィールドに、小数部を含む 4294967295 値を超える数値を送信
障害内容	小数部の桁数が 0 の DECIMAL/NUMERIC フィールドに、小数部の値を含むデータを送信した場合、当該フィールドの値が 0 で送信される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.43	データ転送（受信）で、小数部が 2 桁以上で小数第一位の値がゼロの場合、不正な値で保存する現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送の受信を実行 ・ファイルタイプが、CSV 形式、BASIC 順次、SYLK 形式、タブ区切りテキスト、Microsoft Excel 97 - 2003(xls)、Microsoft Excel(.xlsx)のいずれか ・ホスト側のフィールド桁数が 3 桁以上 ・受信データが、小数部が 2 桁以上で小数第一位の値がゼロ ・ホスト側のフィールド桁数より小数部の桁数が小さい
障害内容	小数部のデータが正しく保存されない。 例> 数値 4 桁中、小数部が 3 桁のフィールドデータを受信した場合。 【ホスト上】　【受信結果】 0.001 → .001 (正しい) 0.010 → .01.00 (誤り) 0.100 → .100 (正しい) 1.000 → 1.000 (正しい)
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.44	データ転送パネルで送信または受信パネルに切り替えると、"不正な転送要求ファイルです。"メッセージが表示される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送システム設定「共通のプロパティ」－「関連付け」で、関連付けするアプリケーションを”データ転送パネル”に設定 ・データ転送パネル「プロパティ」—「自動起動」で、”自動的にデータ転送を開始する”がオン ・データ転送パネル「プロパティ」—「自動起動」で、”転送完了時にデータ転送パネルを閉じる”がオフ ・関連付けにより自動実行したデータ転送パネルを、送信または受信パネルに切り替え
障害内容	不要なメッセージが表示される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.45	EHLLAPI の文字入力関数「SendKey(3)」で、全角文字／半角文字が混在する文字列を入力した場合、入力エラー「HARC_LOCKED(5)」とならない現象を修正
発生条件	以下のいずれかを行った場合。 ・英数カナ文字フィールドに、半角文字から始まる全角文字／半角文字の混在する文字列を SendKey(3)で入力 ・漢字フィールドに、全角文字から始まる全角文字／半角文字の混在する文字列を SendKey(3)で入力
障害内容	ディスプレイセッションは入力エラーとなるが、SendKey(3)の戻り値は正常「HARC_SUCCESS(0)」となる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.46	「エミュレータのプロパティ」－「通信設定」－「接続先設定」画面の「メッセージ待ち行列名」、「ライブラリ名」設定に使用可能な半角文字が入力できない、または先頭に使用禁止の半角文字が入力できてしまう現象を修正
発生条件	「エミュレータのプロパティ」－「通信設定」－「接続先設定」画面の「メッセージ待ち行列名」、「ライブラリ名」設定に、以下の文字を入力した場合。 「メッセージ待ち行列名」 入力できない文字：半角文字’$’ ’@’ ’#’ ’.’ ’_’ 入力できてしまう文字：先頭に半角数字’0～9’ 「ライブラリ名」 入力できない文字：半角文字’$’ ’@’ ’#’ ’.’ ’*’ ’_’ 入力できてしまう文字：先頭に半角数字’0～9’
障害内容	「メッセージ待ち行列名」、「ライブラリ名」設定に、使用可能な半角文字が入力できない、または先頭に使用禁止の半角文字が入力できる。
アップデート未実施時の回避策	入力できない半角文字は、コピー＆ペーストで貼り付け設定する。 先頭文字に使用禁止の半角文字がある場合は削除する。

No.47	「エミュレータのプロパティ」－「プリンタ定義」－「詳細設定」画面の「用紙の種別」で「連続用紙」を選択時、「単票時の自動改ページ」が設定不可にならない現象を修正
発生条件	以下のいずれかを行った場合。 ・「エミュレータのプロパティ」－「プリンタ定義」－「詳細設定」画面の「用紙の種別」で「連続用紙」を選択し、エミュレータのプロパティを再起動した場合 ・「エミュレータのプロパティ」－「プリンタ定義」－「詳細設定」画面の「用紙の種別」で「連続用紙」を選択し、プリンタ定義の「基本設定」画面で「編集形式」を変更した場合
障害内容	「エミュレータのプロパティ」ツールで、「詳細設定」画面の「用紙の種別」を「連続用紙」に選択しているが、「単票時の自動改ページ」が設定可能となる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.48	コードテーブル設定で、PC コードの入力指定に”区点 JIS コード”を設定し文字コード変換の「登録」を行うと、登録確認メッセージに区点 JIS コードが正しく表示されない現象を修正
発生条件	PC コードの入力指定が”区点 JIS コード”で、文字コード変換の登録を行う場合。
障害内容	登録確認メッセージに不正なコードで区点 JIS コードが表示される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.49	UPF 設定ツールで発生条件の設定を変更後に、インストール後から変更されていない「UPFTBL32.UPF」ファイルを読み込むと、読み込み前の設定内容が表示されたままになる現象を修正
発生条件	以下の設定を変更後に、インストール後から変更されていない「UPFTBL32.UPF」ファイルを読み込んだ場合。 ・コメント欄 ・UPF 使用数 ・UPF パッドオートサイジング ・UPF パッドコメント表示
障害内容	読み込み前に設定した内容が表示されたままとなる。
アップデート未実施時の回避策	設定内容を「消去」ボタンで消去する。

No.50	データ転送設定で、接続先定義のサインオン設定に「指定したユーザ ID とパスワードを使用する」が設定されている場合、接続先定義が更新できない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・エミュレータとは別のアプリケーションが、名前指定なしで Windows のキーコンテナを利用 ・データ転送設定ツールで［接続先定義］の［基本］タブにおいて、「サインオン設定」で「指定したユーザーID とパスワードを使用する」を設定 上記条件で以下の操作を行った場合 ①Windows ログオン（サインオン）パスワードをリセット ②データ転送設定ツールで［接続先定義］を更新
障害内容	データ転送設定ツールで接続先定義を更新すると、「設定ファイルの書き込みに失敗しました。」のエラーメッセージを表示し、更新できない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

作成日：２０１８年　７月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

TCPLink
日本語 5250 エミュレータ
Ver5.04-01
リリースメモ

作成日：２０１８年　７月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

Excel は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.5.04-01 での変更内容] 1

[Ver.5.04-01 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	印刷コマンドファイル(PCF)の登録内容にしたがって、プリンタ制御コードをプリンタへ出力する機能に対応、IBM プリンタ定義ファイル(PDF)を利用しての印刷にも対応	機能追加	プリンタセッション／ローカルコピー
2	印刷コマンドファイル(Print Command File:PCF)の作成・変更、および設定方法を示した、『印刷コマンドファイル・リファレンスマニュアル』をマスタ CD-ROM に追加	機能追加	プリンタセッション／ローカルコピー
3	転送要求ファイルをダブルクリックすることにより、データ転送パネル、またはデータ転送コマンドラインプログラムを起動できる機能（関連付け）を追加	機能追加	データ転送
4	関連付け機能で定義した転送要求ファイルからデータ転送パネルを起動する場合、データ転送パネルの起動と同時にデータ転送開始、およびデータ転送完了時にデータ転送パネルを終了する機能を追加	機能追加	データ転送
5	データ転送パネルでデータ送受信の完了時、転送完了メッセージを表示する／しないを指定する機能を追加	機能追加	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
6	Set Session Parameters(9)のセッション・オプションに"RETRY（規定値）/NORETRY"機能を追加 セッション・オプションの設定により、Send Key(3)を呼び出した場合下記の動作を行う RETRY：キーストロークが送信されるか、4分のタイムアウトが発生するまでキーストロークの再送を行う NORETRY：キーボードがブロックまたは使用されていることが確認されたら、関数は即座に戻る	機能追加	API 機能

No	概要	VerUp 区分	変更区分
7	入力フィールドの末尾が半角空白文字で埋められている場合、文字の挿入ができない現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
8	データ転送パネルを起動後、データ転送に関係のない Excel ファイルをダブルクリックやファイルの右メニューから開いた状態で、Excel ファイルのデータ送受信が完了した場合、開いていたデータ転送に関係のない Excel ファイルが閉じてしまう現象を修正	バグ修正	データ転送
9	データ転送（送信）で、送信ファイル名の指定で拡張子を省略している場合、送信ファイルの指定フォルダに同じファイル名で拡張子が異なる BIFF8 形式(.xls)と Office Open XML 形式(.xlsx)のファイルが存在すると、必ず Office Open XML 形式(.xlsx)のファイルが送信されてしまう現象を修正	バグ修正	データ転送
10	データ転送（送信）で、[オブジェクトの作成]設定に「ファイルおよびメンバーを作成」、または「新しいメンバーを作成」を指定した場合、送信データに送信先フィールド長を超える長さのデータが含まれているとデータ転送に失敗する現象を修正	バグ修正	データ転送
11	データ転送（送信）で、存在しない形式記述ファイル(FDF ファイル)を指定して実行しても、「形式記述ファイル（FDF ファイル）が見つかりません。」のエラーメッセージが表示されない現象を修正	バグ修正	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
12	「エミュレータのプロパティ」の状況依存ヘルプの誤記を修正 「ｎLPI の印刷方式」－「行数基準」の有効範囲の上限 　誤：128 行 　正：255 行	説明修正	ヘルプ

No.7	入力フィールドの末尾が半角空白文字で埋められている場合、文字の挿入ができない現象を修正
発生条件	入力フィールドの末尾が半角空白文字で埋められている場合に、文字を挿入する。
障害内容	入力フィールドに文字が挿入できない。
アップデート未実施時の回避策	入力フィールドの末尾にある半角空白文字を削除し文字を挿入する。

No.8	データ転送パネルを起動後、データ転送に関係のない Excel ファイルをダブルクリックやファイルの右メニューから開いた状態で、Excel ファイルのデータ送受信が完了した場合、開いていたデータ転送に関係のない Excel ファイルが閉じてしまう現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送パネルが起動されている状態で、データ転送に関係ない Excel ファイルを開く。 (エクスプローラで「ファイルのダブルクリック」、または「ファイルを右クリックしメニューから開くを選択」) ・データ転送（送受信）のファイルタイプに Excel ファイル(BIFF8 形式(.xls)、または Office Open XML 形式(.xlsx))を指定 ・データ転送で Excel 形式のデータを送信、または受信する。
障害内容	データ転送に関係のない Excel ファイルが閉じてしまう。
アップデート未実施時の回避策	データ転送パネルを起動した状態で、「ファイルのダブルクリック」や、「ファイルを右クリックしメニューから開くを選択」で Excel ファイルを開かない。

No.9	データ転送（送信）で、送信ファイル名の指定で拡張子を省略している場合、送信ファイルの指定フォルダに同じファイル名で拡張子が異なる BIFF8 形式(.xls)と Office Open XML 形式(.xlsx)のファイルが存在すると、必ず Office Open XML 形式(.xlsx)のファイルが送信されてしまう現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送の送信を実行 ・送信ファイルの指定フォルダに同じファイル名で拡張子のみが異なる BIFF8 形式(.xls)と Office Open XML 形式(.xlsx)の Excel ファイルが存在 ・データ転送の送信ファイル名の指定で拡張子を省略 ・送信に使用する形式記述ファイル(.fdf)のファイルタイプに BIFF8 形式(.xls)を指定
障害内容	BIFF8 形式の Excel ファイル(.xls)ではなく、必ず Office Open XML 形式(.xlsx)の Excel ファイルのデータが送信されてしまう。
アップデート未実施時の回避策	データ転送（送信）の送信ファイル名に拡張子(.xls/.xlsx)まで指定する。

No.10	データ転送（送信）で、[オブジェクトの作成]設定に「ファイルおよびメンバーを作成」、または「新しいメンバーを作成」を指定した場合、送信データに送信先フィールド長を超える長さのデータが含まれているとデータ転送に失敗する現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送の送信を実行 ・送信データに送信先フィールド長を超えるデータが存在 ・CSV ファイル／SYLK ファイル／Excel ファイル(BIFF8 形式(.xls)と Office Open XML 形式(.xlsx))／BASIC 順次ファイル／タブ区切りテキストファイルを送信 ・[オブジェクトの作成]に「ファイルおよびメンバーを作成」、または「新しいメンバーを作成」を指定
障害内容	データ転送（送信）で、下記メッセージを表示後、［OK］ボタンで処理を継続すると、データ転送に失敗する。 「送信転送処理に失敗しました。［データ形式変換制御：（0716）］このフィールドのデータが IBM i フィールド・サイズを超えています。フィールド・サイズを超えるデータは切り捨てて送信します。<MakeDataSendTelegram>(0x40000716)よろしいですか？」
アップデート未実施時の回避策	[オブジェクトの作成]を「メンバーの置き換えのみ」に変更してデータ転送(送信)を再実行する。

No.11	データ転送（送信）で、存在しない形式記述ファイル(FDF ファイル)を指定して実行しても、「形式記述ファイル（FDF ファイル）が見つかりません。」のエラーメッセージが表示されない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送の送信を実行 ・存在しない形式記述ファイル(FDF ファイル)を指定 ・[オブジェクトの作成]設定に「ファイルおよびメンバーを作成」、または「新しいメンバーの作成」を指定 ・データ転送パネル起動後に少なくとも 1 回以上、データ転送の送信が正常終了
障害内容	データ転送（送信）で、「形式記述ファイル（FDF ファイル）が見つかりません。」のエラーメッセージが表示されず、「メンバーxxxx はライブラリーyyyy のファイル zzzz に既に存在している。」のエラーメッセージが表示される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.12	「エミュレータのプロパティ」の状況依存ヘルプの誤記を修正
変更内容	ローカルコピー、およびプリンタ設定の「ｎLPI の印刷方式」の状況依存ヘルプの誤記を修正。 「ｎLPI の印刷方式」－「行数基準」の有効範囲の上限 誤：128 行 正：255 行
参照先	「エミュレータのプロパティ」アプリケーションの下記の状況依存ヘルプ ・［セッション設定］タブ－［ローカルコピー設定］ ［基本設定］タブ－［ｎLPI の印刷方式］ ・［プリンタ定義］タブ 「プリンタ定義」を選択－［設定］ボタン ［基本設定］タブ－［ｎLPI の印刷方式］

作成日：２０１８年　１月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

TCPLink
日本語 5250 エミュレータ
Ver5.03-02
リリースメモ

作成日：２０１８年　１月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Excel、および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.5.03-02 での変更内容]..... 1

作成日：２０１８年　１月
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

[Ver.5.03-02 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	以下の OS に対応 ・Windows Server 2016 Standard Edition ・Windows Server 2016 Datacenter Edition	機能追加	システム全般
2	以下の OS を動作対象から削除 ・Windows Vista Business (x86, x64) ・Windows Vista Enterprise (x86, x64) ・Windows Vista Ultimate (x86, x64)	仕様変更	システム全般
3	対応するホストコードを 0x4141～0x7FFE から 0x4141～0xFEFE に変更	機能追加	システム全般
4	送受信ファイルタイプに以下の形式を対応 ・BIFF8 形式：Microsoft Excel 97-2003 (.xls) ・Office Open XML 形式：Microsoft Excel (.xlsx) ・タブ区切りテキスト	機能追加	データ転送
5	転送要求ファイルの形式に IBM i Access for Windows V7 の転送要求ファイル（dtt／dtf 形式）を対応（読み込みのみ対応）	機能追加	データ転送
6	IBM i Access for Windows V7 の転送要求ファイル（dtt／dtf 形式）の読み込みで、サポートしていない設定を検出した際にエラーメッセージを表示し、エラーログを出力する機能を追加	機能追加	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
7	CCSID（日本語変換用のコード化文字セット ID）65535 が指定されているフィールドの変換に対応	機能追加	データ転送
8	データ転送で、以下のオーダーに対応する警告(戻り値 1)を IBM i から受信してもエラーとせずに受信処理を継続するように対応 ・「ユーザ定義オプション 3」オーダー ・「拡張 AS400 オプション要求 2」オーダー	仕様変更	データ転送
9	データ転送（送信）で、フィールドより長いデータを送信しようとしたときに続行か中断か選択できる機能を追加	仕様変更	データ転送
10	3270 と 5250 の共存環境でシステム終了を行うと、ディスプレイセッション終了処理途中に停止する場合がある現象を修正	バグ修正	ホストリンクエクスプローラ
11	ホストリンクエクスプローラの右側ウィンドウからツールが起動できない現象を修正	バグ修正	ホストリンクエクスプローラ
12	「高度な設定」の「「エミュレータのプロパティ」の表示」チェックがオフの場合、プロパティメニューが選択不能（グレー表示）にならない現象を修正	バグ修正	ホストリンクエクスプローラ
13	全桁入力フィールドで全桁入力せずに一部の機能キーを押下しても、IBM i にエラーが送信されない現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション

No	概要	VerUp 区分	変更区分
14	漢字フィールド指定を伴わない継続入力フィールドのデータを、漢字フィールドのデータとして送信する現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
15	全角の FIELD EXIT 要求フィールドで入力可能最終桁に文字を入力すると、カーソルが次のフィールドに移動する現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
16	符号付数字フィールドで入力可能最終桁に文字を入力するとカーソルが最終桁に残るが、その状態で続けて文字を入力してもエラーにならない現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
17	複数の入力フィールドがある画面で、すべての入力フィールドの内容を送信する必要がある場合でも、データが入力されたフィールドの内容のみが送信される現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
18	HOME 機能キーを使用した場合、カーソルが正しい位置に移動しない現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
19	STARTPC コマンドを実行すると､アプリケーションエラーとなる現象を修正(環境変数関連)	バグ修正	ディスプレイセッション
20	STARTPC コマンドを実行すると､アプリケーションエラーとなる現象を修正(引数関連)	バグ修正	ディスプレイセッション
21	キーボードロック状態にならない場合がある現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション
22	ディスプレイセッションに表示される文字が粗く見える現象を修正	バグ修正	ディスプレイセッション

No	概要	VerUp 区分	変更区分
23	Windows 10 Anniversary Update (Version 1607) から Fall Creators Update (Version 1709)環境でプリンタセッションが起動しない現象を修正	バグ修正	プリンタセッション
24	「出力用紙サイズに最適化して印刷」設定が、「終了時の状態を保存」がオンの場合でも保存されない現象を修正	バグ修正	プリンタセッション
25	数値型フィールドのデータ転送（送信）の場合、ファイルタイプが「CSV 形式」、「ASCII テキスト形式」、または「SYLK 形式」で、小数点以下の桁が省略されている場合、数値が正しく送信されない現象を修正	バグ修正	データ転送
26	データ転送（送信）で、最終行に改行がないテキストファイルを送信すると、最終行のレコードが送信されない現象を修正	バグ修正	データ転送
27	データ転送（送信）で、形式記述ファイル（FDF）を使用しないで日付／時刻フィールドへ送信するとエラーとなる現象を修正	バグ修正	データ転送
28	データ転送（送信）で、送信データの小数点以下の桁数が送信先の数値型フィールドの小数点以下の桁数よりも多い場合、数値が丸められず、不正な桁数のデータとして送信される現象を修正	バグ修正	データ転送
29	データ転送（送信）で、数値型フィールドの送信データに最大値を超える数値が含まれている場合、桁あふれした数値が送信される現象を修正	バグ修正	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
30	データ転送（受信）で、全レコードが受信できていないにも関わらず正常終了する場合がある現象を修正	バグ修正	データ転送
31	データ転送パネル（受信）で設定する形式オプションの「日付形式」表示内容を修正（オンラインヘルプも同様）	バグ修正	データ転送・ヘルプ
32	データ転送（受信）で、数値型フィールドの「DECIMAL 型」フィールドがある場合、アプリケーションエラーが発生する現象を修正	バグ修正	データ転送
33	データ転送（受信）で、数値型フィールドの受信データに指定された桁数よりも多い桁数の数値が含まれている場合、アプリケーションエラーが発生する現象を修正	バグ修正	データ転送
34	データ転送パネルでライブラリー／ファイル（メンバー名）の［参照］ボタンを押下すると表示される、ファイル、およびメンバーの参照画面で発生することがある以下の現象を修正 ・メンバーが表示されない ・異なるファイル配下のメンバーが表示される	バグ修正	データ転送
35	ライブラリー名、ファイル名、メンバー名、コメント欄に最大文字数分の文字が設定されている場合、［参照］ボタンを押下すると、アプリケーションエラーが発生する現象を修正	バグ修正	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
36	ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」の場合、複数レコードを含むファイルの送信で以下の現象を修正 ・ファイルの内容は正しいにもかかわらず、以下のエラーになる 「送信転送処理に失敗しました。[データ形式変換制御：(0711)] PC ファイルに誤りがあります。」 ・送信されたレコードの最後のフィールドに余分なダブルクォーテーションが付加されている	バグ修正	データ転送
37	ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」の場合のデータ転送（送信）で、10 進数(INT 型)のフィールドのデータが正しく送信されない現象を修正	バグ修正	データ転送
38	EHLLAPI を使用したアプリケーションの起動が遅くなる場合がある現象を修正	バグ修正	API 機能
39	マクロ記録の一時停止中にマクロ中止機能を実行すると、マクロコントローラが終了しない現象を修正	バグ修正	マクロ
40	VBScript 形式のマクロでセッションの CapsLock 状態、Shift 状態の変化を認識できない現象を修正	バグ修正	マクロ
41	VBScript 形式の WaitForTransition メソッドで待機が終了しない現象を修正	バグ修正	マクロ

No	概要	VerUp 区分	変更区分
42	IBM 社製 Personal Communications（以降 PCOMM）で記録した VBScript 形式の特定のキーワードが含まれるマクロを再生すると「無効なキーワードが指定されました」のエラーとなる現象を修正	バグ修正	マクロ
43	バージョンアップ後に「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動すると以下のメッセージが表示される現象を修正 「レジストリ情報が不正です。 　初期設定を行いますか？」	バグ修正	ツール
44	UPF 設定で指定した以下の略号が入れ替わって動作する現象を修正 ・CrBnk（%K） ・SpEOF（%L）	バグ修正	ツール
45	コードテーブル設定でコードの割り当てを変更後にファイルの新規作成をすると、一部の割り当て設定が残ってしまう現象を修正	バグ修正	ツール
46	[オンラインヘルプ]-[VBScript マクロ]を選択すると文字化けする現象を修正	バグ修正	ヘルプ

No.3	対応するホストコードを 0x4141～0x7FFE から 0x4141～0xFEFE に変更
詳細	対応する機能は以下の通りです ・ディスプレイセッション ・ローカルコピー ・プリンタセッション ・ファイル転送 ・データ転送 ・PCSAPI ・EHLLAPI ・マクロ／スクリプト ・キーアサイン ・UPF ・ホットスポット ・マウス設定

No.10	3270 と 5250 の共存環境でシステム終了を行うと、ディスプレイセッション終了処理途中に停止する場合がある現象を修正
発生条件	3270、5250 の各ディスプレイセッションを 1 セッション以上起動した状態で、3270、あるいは 5250 のディスプレイセッション、またはプリンタセッションからシステム終了する。
障害内容	エミュレータが終了できない場合がある。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.11	ホストリンクエクスプローラの右側ウィンドウからツールが起動できない現象を修正
発生条件	ホストリンクエクスプローラで以下の手順を実行した場合。 ①[ツール]メニューから「保守ユーティリティ」を起動 ②右側ウィンドウから「データ転送設定」、または「データ転送」を起動
障害内容	ホストリンクエクスプローラの右側ウィンドウから「データ転送システム設定」、または「データ転送パネル」が起動できない。 下記メッセージが表示される。 「ツールの起動に失敗しました。(WinExec)」
アップデート未実施時の回避策	「エミュレータ保守」の終了後に、「データ転送設定」、または「データ転送」を起動する。

No.12	「高度な設定」の「「エミュレータのプロパティ」の表示」チェックがオフの場合、プロパティメニューが選択不能（グレー表示）にならない現象を修正
発生条件	ホストリンクエクスプローラのプロパティにある「高度な設定」の「カスタマイズ」タブで、「「エミュレータのプロパティ」の表示」のチェックがオフの場合。
障害内容	プロパティが選択できてしまう。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.13	全桁入力フィールドで全桁入力せずに一部の機能キーを押下しても、IBM i にエラーが送信されない現象を修正
発生条件	全桁入力フィールドで、全桁入力していない状態で以下の機能キーを押下した場合。 ・PF キー ・HOME キー ・タブ・ワードキー ・後退タブ・ワードキー ・ロールアップキー ・ロールダウンキー ・ホスト印刷キー
障害内容	全桁入力フィールドで全桁入力せずに一部の機能キーを押下しても IBM i にエラーが送信されず、以下の動作となる。 ・PF キー ・ロールアップキー ・ロールダウンキー ・ホスト印刷キー ⇒　AID + 画面データが送信 ・HOME キー ・タブ・ワードキー ・後退タブ・ワードキー ⇒　カーソル移動
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.14	漢字フィールド指定を伴わない継続入力フィールドのデータを、漢字フィールドのデータとして送信する現象を修正
発生条件	漢字フィールド指定を伴わない継続入力フィールドに文字を入力して、画面データをホストに送信する場合。
障害内容	ホストに送信されるデータに SO、SI が付加される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.15	全角の FIELD EXIT 要求フィールドで入力可能最終桁に文字を入力すると、カーソルが次のフィールドに移動する現象を修正
発生条件	全角の FIELD EXIT 要求フィールドで、入力可能最終桁に文字を入力した場合。
障害内容	カーソルが次のフィールドに移動する。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.16	符号付数字フィールドで入力可能最終桁に文字を入力するとカーソルが最終桁に残るが、その状態で続けて文字を入力してもエラーにならない現象を修正
発生条件	符号付数字フィールドで、入力可能最終桁に続けて文字を入力した場合。
障害内容	入力可能最終桁への連続文字入力がエラーにならない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.17	複数の入力フィールドがある画面で、すべての入力フィールドの内容を送信する必要がある場合でも、データが入力されたフィールドの内容のみが送信される現象を修正
発生条件	ディスプレイセッションで以下の手順を実行した場合。 ・画面上に「WRITE TO DISPLAY」コマンドで複数の入力フィールドを生成 ・その後、「READ IMMEDIATE」コマンドを受信 ・複数の入力フィールドのうち、一部のみデータ入力 ・実行キー押下
障害内容	すべての入力フィールドのデータではなく、一部のデータしか送信されない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.18	HOME 機能キーを使用した場合、カーソルが正しい位置に移動しない現象を修正
発生条件	以下の条件の場合。 ・カーソル位置(IC オーダー)が指定されていない、かつ 1 行 1 桁目以外に無保護フィールドがある ・補足空白位置にカーソル位置が指定されている
障害内容	カーソル位置(IC オーダー)が指定されていない、かつ 1 行 1 桁目以外に無保護フィールドがある場合は、1 行 1 桁目にカーソル移動し、補足空白位置にカーソル位置が指定されている場合は、次行の補足空白位置の次の桁に移動する。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.19	STARTPC コマンドを実行すると、アプリケーションエラーとなる現象を修正(環境変数関連)
発生条件	以下の 3 つの合計が 1024 バイト以上の場合。 ・現在のシステム環境変数「Path」に登録されているバイト数 ・エミュレータの共通フォルダ名のバイト数 ・エミュレータの接続別フォルダ名のバイト数
障害内容	STARTPC コマンドを実行すると、アプリケーションエラーとなる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.20	STARTPC コマンドを実行すると、アプリケーションエラーとなる現象を修正(引数関連)
発生条件	STARTPC コマンドで 8 個以上の引数を設定した場合。
障害内容	STARTPC コマンドを実行すると、アプリケーションエラーとなる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.21	キーボードロック状態にならない場合がある現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・オペコードに 0x03（書き込み/読み込みオペレーション）が指定されている ・WRITE TO DISPLAY データでキーボードロック解除が指定されていない
障害内容	キーボードロック解除が指定されていないデータを受信しても、キーボードロック状態にならない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.22	ディスプレイセッションに表示される文字が粗く見える現象を修正
発生条件	「ＭＳ　明朝」のようなセリフ付きフォントが選択されている場合。
障害内容	ディスプレイの表示文字を拡大すると文字が粗く見える。
アップデート未実施時の回避策	フォントを「ＭＳ　ゴシック」のようなセリフなしフォントに変更する。

No.23	Windows 10 Anniversary Update (Version 1607)から Fall Creators Update (Version 1709)環境でプリンタセッションが起動しない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・Windows 10 Anniversary Update (Version 1607)が適用済み ・Windows 10 の機能で「Windows で通常使うプリンターを管理する」機能がオン ・プリンタセッションのプロパティの出力先が「通常使うプリンター」に設定されている
障害内容	プリンタセッションが起動しない。
アップデート未実施時の回避策	以下のいずれかの方法を行う。 ・Windows 10 の機能で「Windows で通常使うプリンターを管理する」機能をオフにする ・プリンタセッションのプロパティの出力先に「通常使うプリンター」以外を設定する

No.24	「出力用紙サイズに最適化して印刷」設定が、「終了時の状態を保存」がオンの場合でも保存されない現象を修正
発生条件	「出力用紙サイズに最適化して印刷」の設定内容を変更(無効・有効)後、プリンタセッションを再起動した場合。
障害内容	「出力用紙サイズに最適化して印刷」の設定変更が保存できない。
アップデート未実施時の回避策	ツールパネル内のエミュレータのプロパティで「出力用紙サイズに最適化して印刷」をオンに設定後、プリンタセッションを起動する。

No.25	数値型フィールドのデータ転送（送信）の場合、ファイルタイプが「CSV 形式」、「ASCII テキスト形式」、または「SYLK 形式」で、小数点以下の桁が省略されている場合、数値が正しく送信されない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送（送信） ・ファイルタイプに「CSV 形式」、「ASCII テキスト形式」、または「SYLK 形式」のいずれかが設定されている ・小数点付きの数値型フィールドに小数点以下の桁が有効桁数分設定されていない
障害内容	データ転送時、数値が正しく送信されない。 数値型フィールドのデータ転送時、小数点以下の桁数を調整せず送信していたため、数値の桁がずれて送信していた。 例えば　小数点以下を 2 桁とした場合。 ＜設定値＞　＜誤＞　＜正＞ 0.3　0.03　0.30 0.03　0.03　0.03 3　0.03　3.00 3.0　0.30　3.00 3.00　3.00　3.00 30　0.30　30.00 300　3.00　300.00 3000　30.00　3000.00
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.26	データ転送（送信）で、最終行に改行がないテキストファイルを送信すると、最終行のレコードが送信されない現象を修正
発生条件	複数レコードのテキストファイルで最終行のレコードに改行がない場合。
障害内容	データ転送で最終行に改行がないテキストファイルを送信すると、最終行のレコードが送信されない。
アップデート未実施時の回避策	テキストファイルの最終行のレコードに改行コードを付加する。

No.27	データ転送（送信）で、形式記述ファイル（FDF）を使用しないで日付／時刻フィールドへ送信するとエラーとなる現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送（送信） ・データに日付、または時刻が含まれている ・形式記述ファイル（FDF）を使用しないで送信している ・データの日付、および時刻のフォーマットが直前に送信したデータのフォーマットと異なっている 例えば　直前のフォーマットが「YY/MM/DD」形式で、今回は「MM/DD/YY」形式の場合
障害内容	形式記述ファイル（FDF）を使用しない日付／時刻フィールドへの送信で、エラー：0xFFFFFF4B が発生する。
アップデート未実施時の回避策	送信データの正しいフォーマットが記載されている形式記述ファイル（FDF）を使用して送信する。 形式記述ファイル（FDF）がない場合は、一度受信を行って形式記述ファイル（FDF）を作成する。

No.28	データ転送（送信）で、送信データの小数点以下の桁数が送信先の数値型フィールドの小数点以下の桁数よりも多い場合、数値が丸められず、不正な桁数のデータとして送信される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送（送信） ・ファイルタイプが、「BASIC 順次形式」、「CSV 形式」、「ASCII テキスト形式」、または「SYLK 形式」 ・送信データの小数点以下の桁数が送信先の数値型フィールドの小数点以下の桁数よりも多い
障害内容	データ転送（送信）で、数値型フィールドの指定された小数点以下の桁数よりも多い桁数の数値を送信すると、警告が発生せず、数値を丸めず、桁数も調整せずに送信される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.29	データ転送（送信）で、数値型フィールドの送信データに最大値を超える数値が含まれている場合、桁あふれした数値が送信される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送（送信） ・ファイルタイプが、「BASIC 順次形式」、「CSV 形式」、「ASCII テキスト形式」、または「SYLK 形式」 ・データが数値型フィールドで最大値よりも大きい数値の場合
障害内容	データ転送（送信）で、桁あふれした数値が送信される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.30	データ転送（受信）で、全レコードが受信できていないにも関わらず正常終了する場合がある現象を修正
発生条件	データ転送（受信）で、ホストより異常通知コード「0x000002BE」が通知された場合。
障害内容	データ転送（受信）で、ホストより異常通知コード「0x000002BE」が通知されても正常終了する。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.31	データ転送パネル（受信）で設定する形式オプションの「日付形式」表示内容を修正（オンラインヘルプも同様）
発生条件	データ転送パネル（受信）の［オプション］メニューから「形式オプション」を表示した場合。
障害内容	データ転送パネル（受信）で設定する形式オプションの「日付形式」の選択肢で形式が誤っているものがある。 ＜誤＞　　＜正＞ [MDY] 月日年（mm/dd/yyyy）　[MDY] 月日年（mm/dd/yy） [DMY] 日月年（dd/mm/yyyy）　[DMY] 日月年（dd/mm/yy） [YMD] 年月日（yyyy/mm/dd）　[YMD] 年月日（yy/mm/dd）
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.32	データ転送（受信）で、数値型フィールドの「DECIMAL 型」フィールドがある場合、アプリケーションエラーが発生する現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送（受信） ・数値型フィールドの「DECIMAL 型」フィールドがあり、通知された「全桁数」が偶数桁 ・ディスプレイ出力、またはファイル出力でファイル形式が「ASCII テキスト」、「BASIC 順次」、「SYLK 形式」、または「CSV 形式」
障害内容	データ転送（受信）で、アプリケーションエラーが発生する。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.33	データ転送（受信）で、数値型フィールドの受信データに指定された桁数よりも多い桁数の数値が含まれている場合、アプリケーションエラーが発生する現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送（受信） ・「SMALLINT 型」、または「INTEGER 型」の数値型フィールドで、最大桁数を超える桁数の値が含まれている
障害内容	データ転送（受信）で、アプリケーションエラーが発生する。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.34	データ転送パネルでライブラリー／ファイル（メンバー名）の［参照］ボタンを押下すると表示される、ファイル、およびメンバーの参照画面で発生することがある以下の現象を修正 ・メンバーが表示されない ・異なるファイル配下のメンバーが表示される
発生条件	以下のいずれかの操作で発生する可能性がある。 ・大量にファイルがあるライブラリーを参照した場合 ・大量のフィールドが存在するファイルを受信しようとした場合
障害内容	ライブラリー／ファイル（メンバー名）の［参照］ボタンを押下しても、メンバーが表示されなかったり、異なるファイル配下のメンバーが表示されることがある。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.35	ライブラリー名、ファイル名、メンバー名、コメント欄に最大文字数分の文字が設定されている場合、［参照］ボタンを押下すると、アプリケーションエラーが発生する現象を修正
発生条件	以下のいずれかの条件を満たしている場合。 ・ライブラリー名が 30 文字の場合 ・ファイル名が 10 文字の場合 ・メンバー名が 10 文字の場合 ・コメント欄に半角だけで 50 文字入力されている場合（全角文字が含まれる場合は全角文字 1 文字で半角文字 2 文字分となります）
障害内容	ライブラリー／ファイル（メンバー名）の［参照］ボタンを押下すると、アプリケーションエラーが発生する。
アップデート未実施時の回避策	コメント欄は文字数を減らすことで回避可能。それ以外は回避不可能。

No.36	ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」の場合、複数レコードを含むファイルの送信で以下の現象を修正 ・ファイルの内容は正しいにもかかわらず、以下のエラーになる 「送信転送処理に失敗しました。[データ形式変換制御：(0711)] PC ファイルに誤りがあります。」 ・送信されたレコードの最後のフィールドに余分なダブルクォーテーションが付加されている
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送（送信） ・ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」 ・送信するデータが複数レコード ・送信するデータで、前のレコード長が後ろのレコードより長い ・フィールドの区切り文字であるカンマが、後ろのレコードの改行コードの次の位置に存在する
障害内容	ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」のファイルを送信した場合、送信エラーが発生する。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.37	ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」の場合のデータ転送（送信）で、10 進数(INT 型)のフィールドのデータが正しく送信されない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・データ転送（送信） ・ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」 ・送信先のファイルに 10 進数（INT 型）のフィールドがある
障害内容	10 進数(INT 型)フィールドのデータが、以下の値で送信される。 ・前に 10 進数(SHORT 型)フィールドがある場合はそのフィールドと同じ値 ・前に 10 進数(SHORT 型)フィールドがない場合は 0
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.38	EHLLAPI を使用したアプリケーションの起動が遅くなる場合がある現象を修正
発生条件	EHLLAPI を使用している場合。
障害内容	EHLLAPI モジュールは起動時に EHLLAPI トレースモジュールと通信を行っているが、この通信に時間がかかることがあり、起動が遅くなる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.39	マクロ記録の一時停止中にマクロ中止機能を実行すると、マクロコントローラが終了しない現象を修正
発生条件	他のマクロが再生していない状態で以下の手順を行った場合。 ①マクロコントローラが起動していない状態で、ディスプレイセッションからマクロ記録開始 ②「マクロ記録」中に「一時停止」し、そのまま「マクロ中止」
障害内容	マクロ記録を一時停止中にマクロ中止機能を実行すると、マクロコントローラが終了しない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.40	VBScript 形式のマクロでセッションの CapsLock 状態、Shift 状態の変化を認識できない現象を修正
発生条件	対象セッション以外のウィンドウにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更した場合。
障害内容	VBScript 形式のマクロでセッションの CapsLock 状態、Shift 状態の正しい状態が認識できない。
アップデート未実施時の回避策	セッションにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更する。

No.41	VBScript 形式の WaitForTransition メソッドで待機が終了しない現象を修正
発生条件	emlECLOIA.WaitForTransition メソッドのパラメーターIndex（ガイドライン位置）に 2A、2B、2C を指定して、別のウィンドウにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更した場合。
障害内容	WaitForTransition メソッドで CapsLock 状態、Shift 状態の変更を待つと、待機が終了しない。
アップデート未実施時の回避策	セッションにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更する。

No.42	IBM 社製 Personal Communications（以降 PCOMM）で記録した VBScript 形式の特定のキーワードが含まれるマクロを再生すると「無効なキーワードが指定されました」のエラーとなる現象を修正
発生条件	PCOMM で以下の機能キーの入力を記録した VBScript 形式のマクロを再生した場合。 ・ロールアップ ・ロールダウン ・テスト要求
障害内容	PCOMM で記録した VBScript 形式のマクロを再生するとエラーになる。
アップデート未実施時の回避策	PCOMM で記録した VBScript 形式のマクロをテキストエディタで開き、エラーとなる PCOMM のキーワードを書き換えて保存し、修正後の VBScript 形式のマクロを再生する。 エラーとなる PCOMM のキーワードと修正後のキーワードの対応は以下の通り。 [roll up]　→　[pagedn]　ロールアップ [roll down]　→　[pageup]　ロールダウン [test request]　→　[test]　テスト要求

No.43	バージョンアップ後に「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動すると以下のメッセージが表示される現象を修正 「レジストリ情報が不正です。初期設定を行いますか？」
発生条件	バージョンアップインストール後、旧バージョン（5.03-01 以前）の設定を「レジストリ保守」で復元し、「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動した場合。
障害内容	バージョンアップ後に「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動すると以下のメッセージが表示され、「はい」を選択した場合は旧バージョンでカスタマイズした内容が破棄され、「いいえ」を選択した場合はスタイルを変更できない。 「メッセージ」 　レジストリ情報が不正です。初期設定を行いますか？
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.44	UPF 設定で指定した以下の略号が入れ替わって動作する現象を修正 ・CrBnk（%K） ・SpEOF（%L）
発生条件	UPF ボタンにエミュレータ機能キー「CrBnk」、または「SpEOF」を割り当てた場合。
障害内容	「CrBnk」を割り当てたボタンで「SpEOF」が動作する。または「SpEOF」を割り当てたボタンで「CrBnk」が動作する。
アップデート未実施時の回避策	該当するキーを UPF に設定する際に名前を入れ替えて付ける。 ［CrBnk（%K）　⇔　SpEOF（%L）］

No.45	コードテーブル設定でコードの割り当てを変更後にファイルの新規作成をすると、一部の割り当て設定が残ってしまう現象を修正
発生条件	コードテーブル設定で以下の手順を実行した場合。 ①テーブルの最後の数文字（2 バイトコード：2 文字、1 バイトコード：4 文字）の割り当てを変更 ②「ファイル」メニューから「新規作成」を選択して差分ファイルを新規作成
障害内容	コードテーブル設定でコードの割り当てを変更後にファイルの新規作成をすると、一部の割り当て設定が残ってしまう。
アップデート未実施時の回避策	「新規作成」で継続して設定を行う代わりに、一旦コードテーブル設定を再起動してから設定を行う。

No.46	[オンラインヘルプ]-[VBScript マクロ]を選択すると文字化けする現象を修正
発生条件	Internet Explorer メニュー「表示」－「エンコード」で「日本語（シフト JIS）」以外を選択しヘルプを起動した場合。
障害内容	ヘルプが文字化けする。
アップデート未実施時の回避策	以下のいずれかを行う。 ・Internet Explorer のエンコードを「シフト JIS」へ変更 ・「VBScript マクロ」ヘルプの右画面で、右クリック「プロパティ」選択し、「OK/キャンセル」を選択

２０１６年　３月３１日

お客様各位

キヤノンＩＴソリューションズ株式会社

ＴＣＰＬｉｎｋ
日本語５２５０エミュレータ
バージョン 5.03 リビジョン01 変更内容について

拝啓　貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「TCPLink 日本語 5250 エミュレータ」（Ver.5.02-01→Ver.5.03-01）において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

記

［強化項目］

以下の機能を強化しました。

［システム全般］

◎以下の OS に対応しました。
・Microsoft Windows 10 Pro
・Microsoft Windows 10 Pro x64
・Microsoft Windows 10 Enterprise
・Microsoft Windows 10 Enterprise x64

◎以下の OS を動作対象から除きました。
・Microsoft Windows 8 Pro
・Microsoft Windows 8 Pro x64
・Microsoft Windows 8 Enterprise
・Microsoft Windows 8 Enterprise x64

［ディスプレイ機能関連］

◎IBM 製 Personal Communications で記録して作成した VBScript 形式のマクロファイルを使用できるようにしました。

◎ディスプレイセッションの［操作］メニューに、マクロ機能のメニューを追加しました。
ただし、初期設定では非表示のため、表示するには、エミュレータスタイルの設定で“表示”にする必要があります。

［改修項目］

以下の問題点を修正しました。

［インストーラ関連］

・複数の弊社エミュレータが共存する環境でバージョンアップインストールを行うと、PC の再起動後にセッションが起動できなくなることがある。

・バージョンアップインストールを行うと、「ユーザ名」と「会社名」が、新規インストール時のユーザ登録画面で設定した情報から PC に登録されている情報に変更されてしまう。

［プリンタ機能関連］

・「エミュレータのプロパティ」で行ったローカルコピーの設定が、設定後に起動したディスプレイセッションのローカルコピーの結果や「ローカルコピーのプロパティ」に反映されていない。
※「エミュレータのプロパティ」の設定を移行する設定でバージョンアップインストールを行った環境では、現象は発生しません。

［ユーティリティ関連］

・「エミュレータのプロパティ」のプリンタの設定およびローカルコピーの設定で、基本設定の出力先プリンタのプロパティの設定が保存されないことがある。
※出力先プリンタのプロパティは、基本設定の編集形式が「Windows プリンタドライバ」または「Windows プリンタドライバ（枠線あり）」（ローカルコピーの設定のみ）で、詳細設定の「セッション起動時に出力先プリンタ設定の反映」をチェックした場合に設定できます。

・「マクロ編集」、「ホットスポット設定」で、ツールバーを非表示にすると、メニューバーの下に不要な空間が追加される。

［API 機能関連］

・EHLLAPI の「Query Extended Window Status(104)」を実行すると、qwsx_struct 構造体の qwsx_cyfont に「実際の値+1」がセットされる。

［ヘルプ関連］

・「エミュレータのプロパティ」の、ディスプレイ定義 - ディスプレイの設定 - 詳細設定の「数字用キーロック」の説明に誤りがある。
＜誤＞
使用する　　：数字（０～９）、記号（．－）、DUP のみが入力可能
修正型で使用する　　：［使用する］のキーに加え、スペース、記号（，＃）が入力可能
＜正＞
使用する　　：数字（０～９）、記号（．－，）、スペース、DUP のみが入力可能
修正型で使用する　　：［使用する］のキーに加え、記号（＃）が入力可能

・プリンタセッションの、プリンタセッションの状態表示 - ［メッセージ （システム／プリンタ状況）］の説明のなかにある「プリンタ初期化失敗」のリンクをクリックしても、「プリンタ初期化失敗」の説明が表示されない。

［その他］

以下の仮想環境での動作を確認しています。

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware Horizon View 6.1(ESXi 5.5 Update2)	Windows 7 Professional SP1	―	○
	Windows 8.1 Enterprise	○	―
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	―	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	―	○
Citrix XenDesktop 7.5	Windows 7 Professional SP1	○	―
	Windows 8.1 Pro	―	○
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	―	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	―	○
Microsoft VDI (Windows Server 2012 R2 Hyper-V)	Windows 7 Professional SP1	○	―
	Windows 8.1 Enterprise	―	○
	Windows Server 2008 R2 Standard SP1	―	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	―	○
VMware ESXi 5.5	Windows Server 2012 R2 Standard	―	○
Windows Server 2012 R2 Hyper-V	Windows Server 2008 R2 Standard SP1	―	○

○：確認済み　―：対象外

＜前提条件＞
仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

・仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
・ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
・ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
・仮想環境に起因する不具合は、弊社では対応できません。それぞれのメーカー様、ベンダー様までお問い合わせください。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以　上

Microsoft、Windows、Windows Server および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

２０１５年１０月３０日

お客様各位

キヤノンＩＴソリューションズ株式会社

ＴＣＰＬｉｎｋ
日本語５２５０エミュレータ
バージョン 5.02 リビジョン01 変更内容について

拝啓　貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「TCPLink 日本語 5250 エミュレータ」（Ver.5.01-01→Ver.5.02-01）において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

記

［強化項目］

以下の機能を強化しました。

［インストーラ関連］

◎以下の OS で、「ホストリンクエクスプローラ」と「ツールパネル」のショートカットをデスクトップに作成できるようにしました。

・Microsoft Windows Vista Business
・Microsoft Windows Vista Business x64
・Microsoft Windows Vista Enterprise
・Microsoft Windows Vista Enterprise x64
・Microsoft Windows Vista Ultimate
・Microsoft Windows Vista Ultimate x64
・Microsoft Windows 7 Professional
・Microsoft Windows 7 Professional x64
・Microsoft Windows 7 Enterprise
・Microsoft Windows 7 Enterprise x64
・Microsoft Windows 7 Ultimate
・Microsoft Windows 7 Ultimate x64

・Microsoft Windows Server 2008 Standard
・Microsoft Windows Server 2008 Standard x64
・Microsoft Windows Server 2008 Enterprise
・Microsoft Windows Server 2008 Enterprise x64
・Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard
・Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise

［改修項目］

以下の問題点を修正しました。

［インストーラ関連］

・「Windows¥system」フォルダのある OS でエミュレータのアンインストールに失敗した場合、再度アンインストールを実行するとアンインストールが終了しないことがある。

［マニュアル関連］

・『ソフトウェア説明書』に、リモートデスクトップサービスまたはターミナルサービスがインストールされている環境にエミュレータをインストールしようとした場合、インストールの途中でフォントの登録に失敗する現象を回避する方法が記載されていない。

［その他］

以下の仮想環境での動作を確認しています。

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware Horizon View 6.0 (ESXi 5.5 Update2)	Windows 7 Professional SP1	―	○
	Windows 8.1 Enterprise	○	―
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	―	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	―	○
Citrix XenDesktop 7.5	Windows 7 Professional SP1	○	―
	Windows 8.1 Enterprise	―	○
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	―	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	―	○
Microsoft VDI (Windows Server 2012 R2 Hyper-V)	Windows 7 Professional SP1	○	―
	Windows 8.1 Enterprise	―	○
	Windows Server 2008 R2 Standard SP1	―	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	―	○
VMware vSphere 5.5	Windows Server 2008 R2 Standard	―	○
Windows Server 2012 Hyper-V	Windows Server 2012 Standard	―	○
Windows Server 2012 R2 Hyper-V	Windows Server 2008 Standard	○	―

○：確認済み　ー：対象外

＜前提条件＞
仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。
・仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
・ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
・ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
・仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以　上

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

２０１５年　４月　２日

お客様各位

キヤノンＩＴソリューションズ株式会社

ＴＣＰＬｉｎｋ
日本語５２５０エミュレータ
バージョン 5.01 リビジョン01 変更内容について

拝啓　貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「TCPLink 日本語 5250 エミュレータ」（Ver.4.10-01→Ver.5.01-01）において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

記

［強化項目］

以下の機能を強化しました。

［システム全般］

◎以下の OS に対応しました。
・Microsoft Windows Server 2008 Standard(SP2)
・Microsoft Windows Server 2008 Standard x64(SP2)
・Microsoft Windows Server 2008 Enterprise(SP2)
・Microsoft Windows Server 2008 Enterprise x64(SP2)
・Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard(SP2)
・Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise(SP2)
・Microsoft Windows Server 2012 Standard
・Microsoft Windows Server 2012 Datacenter
・Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard
・Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter

◎以下の OS を動作対象から除きました。
・Microsoft Windows XP Professional
・Microsoft Windows XP Professional x64

◎必要メモリサイズが「約 256MB」になりました。

［ホストリンクエクスプローラ機能関連］

◎セッションを起動するショートカットをデスクトップに作成できるようにしました。

［TCPLink 関連］

◎エミュレータのプロパティの「通信設定」－「詳細設定」に「telnet キープアライブ」を追加し、コマンドとタイマを設定できるようにしました。また、「キープアライブ」を「TCP/IP キープアライブ」に名称変更しました。

［ディスプレイ機能関連］

◎画面サイズが変更された場合、指定されているフォントサイズを基準にウィンドウサイズを拡大／縮小して表示できるようにしました。

［データ転送機能関連］

◎CSV 形式での受信時、データ内の「"」を「""」に置換するようにしました。
また、CSV 形式での送信時、データ内の「""」を「"」に置換するようにしました。

◎データ転送パネルのデータ・オプションで指定する以下の SQL 構文の最大入力文字数を 1024 バイトから 2048 バイトに拡張しました。
・Join by
・Group by
・Select
・Where
・Having
・Order by

［ユーティリティ関連］

◎エミュレータのプロパティの「通信設定」－「設定」でデバイス名に「$」、「@」、「#」、「_」を使用できるようにしました。

［保守機能関連］

◎「エミュレータ保守」の保守機能を強化しました。
また、各種ツールの保守機能を「エミュレータ保守」に統合しました。
＜主な機能＞
・各種トレースの採取設定
・各種トレースの詳細設定（ファイルサイズ、ファイル数、採取レベル）
・各種ログの採取
・トレース／ログの総出力サイズ、および出力先ドライブの空き容量の表示
・情報収集
これにより、エミュレータのプロパティの「保守設定画面」は削除しました。

◎トレースを出力する処理を高速化しました。

［改修項目］

以下の問題点を修正しました。

［インストーラ関連］

・以下の OS でインストールパスを変更してインストールすると、スタート画面からホストリンクエクスプローラが起動できない。
・Microsoft Windows 8 Pro
・Microsoft Windows 8 Pro x64
・Microsoft Windows 8 Enterprise
・Microsoft Windows 8 Enterprise x64
・Microsoft Windows 8.1 Pro
・Microsoft Windows 8.1 Pro x64
・Microsoft Windows 8.1 Enterprise
・Microsoft Windows 8.1 Enterprise x64
・Microsoft Windows Server 2012 Standard
・Microsoft Windows Server 2012 Datacenter
・Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard
・Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter

・バージョンアップインストールを行うと、正常にインストールが完了しているにもかかわらず、「このプログラムは正しくインストールされなかった可能性があります」というメッセージが表示されることがある。

［ディスプレイ機能関連］

・半角文字が入力されている混在フィールドの先頭から挿入モードで全角文字を入力すると、不正な縦罫線が表示されることがある。

・入力フィールドが複数ある画面で英小文字の u のキーを押下し続けると､時々英大文字の U が入力される。

・機能キーを登録した UPF キーをアサインした状態で実行されない機能キーある。

［プリンタ機能関連］

・プリンタ定義で出力先を「通常使うプリンタ」に設定している場合に、プリンタセッションで「終了時の状態保存」を ON にしてプリンタセッションを終了し、OS の「通常使うプリンター」を削除／名称変更するとプリンタセッションが起動できない。

・横倍指定のオーダを受けると、標準サイズに戻すオーダを受けても、横倍のまま出力される。

・80 バイト以上のプリンタ名のプリンタを使用すると、アプリケーションエラーが発生する。
※使用するプリンタのプリンタ名は、79 バイト以内で設定してください。

・出力先プリンタに ClassDriver を設定した場合、プリンタセッションの起動に失敗する。

［データ転送機能関連］

・「データ転送システム設定」の左画面で、接続先の定義名を選択した際に右画面に表示される［ネットワークトレースの最大ファイルサイズ］と［ネットワークトレースの最大ファイル数］の値が逆になっている。

・「データ転送システム設定」の初回起動時に何も設定せずに終了し、再度「データ転送システム設定」を起動すると「設定ファイルの読み込みに失敗しました」と表示される。

・データ転送パネルの受信モードで、［出力先］を“ディスプレイ”にした時に表示される画面で、キャンセルを繰り返すとアプリケーションエラーが発生することがある。

・IBM 製 Personal Communications 5.9 よりも古いバージョンで作成した TTO ファイルを開くと、「転送要求ファイルの読み込みに失敗しました。」と表示される。

・送信ファイルの 1 レコードの長さが転送するファイルのレコード長より短い場合にアプリケーションエラーが発生する。

・「ライブラリ／ファイル（メンバ）」の指定で、最初の「/」の次の文字から最初の「(」の直前までのファイル名の長さが 30 バイトを超えるデータを受信するとアプリケーションエラーが発生する。

・データ受信時のファイル書き込みモードが「新規保存」の場合、対象のファイルが存在すると、エラーメッセージが「PC ファイルが見つかりません。」と表示される。

・データ転送パネルの受信モードで、［出力先］を“ディスプレイ”にしデータの受信中に、受信データ表示ダイアログを［閉じる］ボタンで終了させると、受信データ表示ダイアログが固まることがある。

・データ転送開始時に［中断］ボタンを押してもデータ転送が中断できないことがある。

・ファイル形式を「無変換」、送信ファイルオプションを「ファイルタイプ」に指定して送信を実行すると、「カラム xxx への割り当て時に変換エラー。」と表示される。

［ユーティリティ関連］

・コード変換テーブル（送信：JIS83→ホスト）の初期値の誤りを修正しました。
対象 JIS コード：0x8D3F～0x8D48、0x8D4E～0x8D57、0x9175、0x917A、0x3937、0x9452

・プリントジョブスケジューラ設定でプリントジョブ出力後の処理に「指定時間後に削除」を指定しているにもかかわらず、設定した指定時間を過ぎた情報が残ることがある。

［保守機能関連］

・レジストリ保守ツールで［ファイル出力］をした場合、以下の項目が出力されない。
  ・IPv6
  ・マクロコントローラの表示
  ・プリントジョブスケジューラの表示

［API 機能関連］

・EHLLAPI で、「Search Presentation Space(6)」を実行すると、EHLLAPI アプリケーションが応答しなくなる。

・セッションを起動していない状態で、EHLLAPI の「Copy Presentation Space(5)」を実行すると、ランタイムエラーが発生する。

・セッションを起動していない状態で、EHLLAPI の「Copy Presentation Space(5)」を、コピーの開始位置が 2 バイト文字の 2 バイト目や終了位置が 2 バイト文字の 1 バイト目になる状態で実行すると、アプリケーションエラーが発生することがある。

・EHLLAPI の以下の関数で、フィールド属性のフイールド・タイプの値が正常に取得できないことがある。
  ・Copy Presentation Space(5)
  ・Copy Presentation Space To String(8)
  ・Query Field Attribute(14)
  ・Copy String To Presentation Space(15)
  ・Find Field Position(31)
  ・Find Field Length(32)
  ・Copy String To Field(33)
  ・Copy Field To String(34)

・EHLLAPI の「Copy Field To String(34)」で、フィールド長を超える値のデータ・ストリング長を指定すると、戻りコードが「6」にならず「0」となる。

  ※戻りコード「6」:HARC_TRUNCATION
  戻りコード「0」:HARC_SUCCESS

［IWS 機能関連］

・マクロの実行を指定した UPF キーをアサインしたキーを連続して押下すると、マクロコントローラのエラーメッセージが表示され、最終的にはアプリケーションエラーが発生する。

［制限事項］

・Ver.4.10-01 より前のバージョンの TCPLink スタンダード/DirectLink との共存はできません。
・プリントサーバとの共存はできません。

［その他］

以下の仮想環境での動作を確認しています。

デスクトップ仮想化

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware Horizon View 6.0 (ESXi 5.5)	Microsoft Windows 7 Professional SP1	―	○
	Microsoft Windows 8.1 Pro	―	○
	Microsoft Windows Server 2008 R2 Datacenter	―	○
Citrix XenDesktop 7.5	Microsoft Windows 7 Professional SP1	―	○
	Microsoft Windows 8.1 Pro	―	○
	Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard SP1	―	○
	Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard	―	○
Microsoft VDI G2	Microsoft Windows 7 Professional SP1	―	○
	Microsoft Windows 8.1 Pro	―	○
	Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard SP1	―	○
	Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard	―	○

○：確認済み　－：対象外

サーバ仮想化

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware vSphere 4.1	Microsoft Windows 7 Enterprise SP1	○	―
Windows Server 2012 Hyper-V	Microsoft Windows Server 2012 Standard	―	○
Windows Server 2012 R2 Hyper-V	Microsoft Windows Server 2008 Standard	―	○

○：確認済み　－：対象外

＜注意事項＞

・デスクトップ仮想化について

仮想化されたデスクトップ環境にエミュレータをインストールする場合、セットアップが停止する問題が発生します。

その場合は、以下の回避策をお試しください。

【Horizon View】

VMware 社 Web サイトにて次の内容をご確認の上お試しください。

・VMware Knowledge Base　2091845

タイトル「Legacy applications fail to start with the VMware View 6.0 or 6.0.1 agent installed (2091845)」

【XenDesktop】

①デバイスマネージャを起動し、「Citrix Devices」の「Citrix Systems Inc. Console Mouse Device」を無効にし、OS を再起動します。

②エミュレータをインストールします。

③①の「Citrix Systems Inc. Console Mouse Device」を有効にし、OS を再起動します。

＜前提条件＞
仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

・仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
・ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
・ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
・仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以　上

Microsoft、Windows Server、Windows および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

２０１３年　７月１６日

お客様各位

キヤノンＩＴソリューションズ株式会社

ＴＣＰＬｉｎｋ
日本語５２５０エミュレータ
バージョン 4.10 リビジョン01 変更内容について

拝啓　貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「TCPLink 日本語 5250 エミュレータ」（Ver.3.51-01→Ver.4.10-01）において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

記

［概要］

・弊社社名変更に伴い、関連する表記を修正しました。

［強化項目］

以下の機能を強化しました。

［システム全般］

◎以下の OS に対応しました。
・Microsoft Windows 8 Pro
・Microsoft Windows 8 Enterprise
※32 ビット版アプリケーションとして動作します。
※デスクトップ・アプリケーションとしての動作を保証します。

◎IPv6 に対応しました。

◎IBM i (AS/400)上の as-database サービスを使用したデータ転送機能をサポートしました。
データ転送は、ディスプレイセッションの操作メニュー、ツールパネル、エミュレータのプログラムフォルダから起動したデータ転送パネル、またはコマンドラインから実行できます。

［ディスプレイ機能関連］

◎以下の画面サイズをサポートしました。
・27×132

◎以下の機能キーをサポートしました。
・範囲移動↑
・範囲移動↓
・範囲移動←
・範囲移動→
・マクロ記録
・マクロ再生
・マクロ一時停止
・マクロ中止
※以下の機能には対応していません。
・ディスプレイセッションのツールボタン
・UPF
・エミュレータキーパッド
・ホットスポット
・マクロ
・EHLLAPI

◎「挿入」キーの名称を「挿入切替」に変更しました。

◎ローカルコピーにおいて、編集形式が「テキスト」の場合、通常のフォントにはない以下の特殊文字をスペースではなく代替文字で出力するようにしました。

		代替文字
・┆（PC コード：0x7F）	→	｜
・～（PC コード：0xFF）	→	~

［プリンタ機能関連］

◎編集形式が「テキスト」の場合、通常のフォントにはない以下の文字をスペースではなく代替文字で出力するようにしました。

		代替文字
・┆（PC コード：0x7F）	→	｜
・～（PC コード：0xFF）	→	~

［ユーティリティ関連］

◎エミュレータのプロパティにおいて、通信設定のゲートウェイ種別の初期値を「IBM 社製 AS/400 直結」に変更しました。これにより、端末種別の初期値も変更になります。

◎エミュレータのプロパティにおいて、通信設定の送受信バッファの初期値を「4096」に変更しました。

◎エミュレータのプロパティにおいて、ディスプレイ定義のカラー設定および属性設定の初期設定でメインフレームメーカーの純正エミュレータと同じ色に設定できるようにしました。

［API 機能関連］

◎提供ファイルを以下の環境で作成したファイルに変更しました。
・C 言語　　：Microsoft 社製 Visual C++ 6.0
・VB 言語　　：Microsoft 社製 Visual Basic 6.0

［改修項目］

以下の問題点を修正しました。

［ディスプレイ機能関連］

・UPF キーパッドから「ジャンプ」キーまたは「前ジャンプ」キーが実行されると、セッションがハングアップする。

・UPF キーパッドのボタンが押下されると、アプリケーションエラーが発生することがある。

・エミュレータキーパッドから機能キーの実行および文字の入力が行われると、アプリケーションエラーが発生することがある。

・保護フィールドのみの画面で「後退」キーが押下されると、アプリケーションエラーが発生する。

・不定様式画面で「タブ・ワード」キーまたは「後退タブ・ワード」キーが押下されると、セッションがハングアップする。

・1 画面データに入力不可の解除の可否を指定するオーダーが複数個含まれる場合に最後のオーダーの指定を有効としない。

・Repeat To Address オーダーを受信すると、オーダーで指定された範囲内のフィールドを消去してしまう。

・カーソルが DDS ウィンドウの先頭のメニュー項目から最後のメニュー項目の間､かつメニュー項目上以外にある状態で以下の機能キーが押下されると、入力不可とせずに押下された機能キーの動作を実行して、カーソル位置から最後のメニュー項目までのメニュー項目と DDS ウィンドウ枠を消去してしまう。
  ・Field Exit
  ・Field +
  ・Field -

・「ジャンプ」キーまたは「前ジャンプ」キーが実行されても、画面を切り替えないことがある。

・エミュレータキーパッドに機能キーの「前ジャンプ」がない。

［ファイル転送機能関連］

・ファイル転送が実行されると、アプリケーションエラーが発生することがある。

［ユーティリティ関連］

・エミュレータスタイルの設定のツールバータブにおいて、以下のショートカットキーでフォーカスが正しく移動しない。
  ・Alt+L
  ・Alt+B
  ・Alt+T

・レジストリ保守ツールの印刷機能およびファイル出力機能で、ソフトウェアスイッチの情報を正しく出力しないことがある。

［API 機能関連］

・ディスプレイセッションに EHLLAPI または PCSAPI の関数が実行されると、アプリケーションエラーが発生することがある。

［制限事項］

・以下の弊社エミュレータとの共存はできません。
  ・Ver.2.50-01 以前の SingleLink
  ・Ver.2.50-01 以前の DirectLink HIS 対応版

以　上

Microsoft、Windows、Visual C++および Visual Basic は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

２０１２年　９月　４日

お客様各位

キヤノンＩＴソリューションズ株式会社

ＴＣＰＬｉｎｋ
日本語５２５０エミュレータ
バージョン 3.51 リビジョン01 変更内容について

拝啓　貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「TCPLink 日本語 5250 エミュレータ」（Ver.3.50-01→Ver.3.51-01）において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

記

［強化項目］

以下の機能を強化しました。

［システム全般］

◎以下の OS を動作対象から除きました。
・Windows 2000 Professional

［プリンタ機能関連］

◎編集形式が IBM5575/5577 の場合、最大印刷行数 255 行まで印刷できるようにしました。

［改修項目］

以下の問題点を修正しました。

［システム全般］

・ホストコード（6D82、7278）との対応づけに誤りがあったため、JIS78、JIS83、JIS90 について次のように修正しました。

ホストコード		JIS コード（シフト JIS コード）
6D82	→	876A（F48A）
7278	→	916A（F98A）

・エミュレータが起動されたまま OS をシャットダウンすると、「プログラムが閉じられていません」のメッセージが表示され、メッセージ内の「強制的にシャットダウン」を選択するとアプリケーションエラーが発生する。

［ディスプレイ機能関連］

・入力不可のままになることがある。

・ブリンクモードが“ブリンク”の場合に、ディスプレイセッションが応答しなくなることがある。

・送信フィールド、および ReadInputFields コマンドを含むデータを受信後、画面遷移ができなくなる。

・現在位置が 1 行 1 桁目の状態でフィールド長 1919 の START OF FILED コマンドを受信した後に返す画面情報が不正になる。

・入力フィールド数の上限は 256 であるにもかかわらず、入力フィールド数が 251～256 のデータに対して否定応答を返す。

・WRITE ERROR CODE コマンドを受信後、3270 エミュレーション画面データに対して否定応答を返す。

・Windows Vista または Windows 7 で以下の条件をすべて満たす場合に、文字を入力すると、下線の一部や文字と隣り合った縦罫線が消えることがある。
　・Windows のデスクトップのカスタマイズで「ClearType」を有効にしている
　・エミュレータのディスプレイ定義で「直接描画方式」を指定している

［プリンタ機能関連］

・縦横 1/2 の縮小文字が正しい印刷位置より左に印刷される。

・文字の高さより広い改行幅の後に文字の高さより狭い改行幅が指定されると、文字が正しい印刷位置より上に印刷される。

・印刷行密度が以下の場合に、縦倍角文字の下側が二重に印刷される。
　・2LPI
　・3LPI
　・4LPI
　・6LPI

・「データ待ち」の場合、改ページボタンを押下しても、最大印刷行数分改行されない。

・未サポートの制御コードを含むデータを受信すると、"APEMU32.DLL"のアプリケーションエラーが発生する。

・「プリンタセッション終了」のメッセージボックス表示中に、ディスプレイセッションからエミュレータ終了すると、アプリケーションエラーが発生する。

［ファイル転送機能関連］

・ファイル転送パネルで「Microsoft XPS Document Writer」に印刷すると、文字化けする。

［ユーティリティ関連］

・異なるプリンタドライバを同じプリンタ名で入れ替えた場合、エミュレータのプロパティのプリンタ定義を開こうとすると、"LODLIB32.EXE"のアプリケーションエラーが発生する。

・エミュレータのプロパティのディスプレイ定義で、コードテーブル定義の「JIS コード指定」が空欄になっていることがある。

・レジストリ保守で、レジストリの復元に失敗することがある。

・レジストリ保守で「Microsoft XPS Document Writer」に印刷すると、文字化けする。

［API 機能関連］

・EHLLAPI で、「Copy String To Presentation Space(15)」を実行すると、ディスプレイセッションが応答しなくなることがある。

・EHLLAPI で、「Get Key(51)」の初回実行時の戻りコードが、関数の使用方法に問題がないにもかかわらず、"HARC_SYSTEM_ERROR"になることがある。

・EHLLAPI で、キー入力する前に、セッション・オプションに TWAIT を指定して「Get Key(51)」を実行すると、Microsoft Visual C++ Runtime Library の Runtime Error が発生する。

以　上

２００７年　９月２８日

お客様各位

キヤノンＩＴソリューションズ株式会社

ＴＣＰＬｉｎｋ
日本語５２５０エミュレータ
バージョン 3.50 リビジョン01 変更内容について

拝啓　貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「ＴＣＰＬｉｎｋ　日本語５２５０エミュレータ」
（Ver.３．０１－０２－＞Ver.３．５０－０１）において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

概要

・弊社社名変更に伴い、関連する表記を修正しました。

［強化項目］

以下の機能を強化しました。

［システム全般］

◎自動起動が設定されていない端末でのインストーラ起動モジュールを"SETUP.EXE"に変更しました。

［ディスプレイ機能関連］

◎罫線情報付き READ SCREEN コマンドに対応しました。

［ユーティリティ関連］

◎エミュレータ保守ユーティリティのアイコンを変更しました。

［改修項目］

以下の問題点を修正しました。

［ディスプレイ機能関連］

・半角文字が全角文字に文字化けすることがある。

・文字モードが英数カナの場合に、“ ^ ”、“ [”、“] ”が入力できてしまう。

・英小文字が入力できないフィールドに英小文字が入力できてしまう。

・半角文字が入力できるフィールドに半角文字が入力できないことがある。

［ユーティリティ関連］

・インストールされている全プリンタ名の合計が 4096 バイトを超える場合に、エミュレータのプロパティのディプリンタ定義の“ 出力先 ”リストに全プリンタ名が表示されない。

［IWS 機能関連］

・マクロでファイル転送を行うと、マクロコントローラが“ 自動再生中 ”のまま終了しないことがある。

以　上

２００７年　1月３１日

お客様各位

キヤノンＩＴソリューションズ株式会社

ＴＣＰＬｉｎｋ
日本語５２５０エミュレータ
バージョン 3.01 リビジョン02 変更内容について

拝啓　貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「ＴＣＰＬｉｎｋ　日本語５２５０エミュレータ」
（Ver.２．０７－０２－＞Ver.３．０１－０２）において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

概要

［強化項目］

以下の機能を強化しました。

［システム全般］

◎ＮＥＣ　ＰＣ－９８００シリーズが対応パーソナルコンピュータから除かれました。
これにより、エミュレータのプロパティのシステム設定から「キーボード種別」の設定を削除しました。

◎以下のＯＳに対応しました。
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　ＸＰ　Ｐｒｏｆｅｓｓｉｏｎａｌ　ｘ６４　Ｅｄｉｔｉｏｎ
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　Ｖｉｓｔａ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　Ｖｉｓｔａ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｘ６４　Ｅｄｉｔｉｏｎ
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　Ｖｉｓｔａ　Ｅｎｔｅｒｐｒｉｓｅ
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　Ｖｉｓｔａ　Ｅｎｔｅｒｐｒｉｓｅ　ｘ６４　Ｅｄｉｔｉｏｎ
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　Ｖｉｓｔａ　Ｕｌｔｉｍａｔｅ
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　Ｖｉｓｔａ　Ｕｌｔｉｍａｔｅ　ｘ６４　Ｅｄｉｔｉｏｎ

◎以下のＯＳが動作対象から除かれました。
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　９５　Ｏｐｅｒａｔｉｎｇ　Ｓｙｓｔｅｍ
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　９８
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　Ｍｉｌｌｅｎｎｉｕｍ　Ｅｄｉｔｉｏｎ
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　ＮＴ　３．５１　Ｗｏｒｋｓｔａｔｉｏｎ
・Ｗｉｎｄｏｗｓ　ＮＴ　Ｗｏｒｋｓｔａｔｉｏｎ　Ｏｐｅｒａｔｉｎｇ　Ｓｙｓｔｅｍ　Ｖｅｒｓｉｏｎ　４．０

［ホストリンクエクスプローラ機能関連］

◎エミュレータのプロパティ、プリントジョブスケジューラ、マクロコントローラを使用させないように設定できるようにしました。

［ディスプレイ機能関連］

◎「コピー」「コピー追加」の実行時に、改行コードを付加するようにしました。

［プリンタ機能関連］

◎編集形式がＷｉｎｄｏｗｓプリンタドライバの場合に、自動的に出力倍率を出力用紙サイズに最適化して印刷できるようにしました。

［ユーティリティ関連］

◎エミュレータのプロパティのシステム設定タブのセッション設定をセッション設定タブに移動し、複数のセッションに対しまとめて設定できるようにしました。

◎エミュレータのプロパティの通信設定から「データ受信監視タイマ」の設定を削除しました。

［オンラインリファレンス関連］

◎リファレンスマニュアル、および状況依存ヘルプをＷｉｎｄｏｗｓヘルプ形式からＨＴＭＬヘルプ形式に変更しました。

［改修項目］

以下の問題点を修正しました。

［システム全般］

・デュアルＣＰＵやハイパースレッドのマシンで、排他制御に問題があり、リソースが解放されない。

［ＴＣＰＬｉｎｋ関連］

・送受信中にセッションを終了すると、ＮＣＰ３２．ＥＸＥのアプリケーションエラーが発生することがある。

［ディスプレイ機能関連］

・送信系のキーが実行できないことがある。

・１チェーン中に複数のコマンドデータを受信すると、”入力不可”のままとなる。

・数字専用フィールドにアルファベットが入力できることがある。

・ＤＤＳ罫線を含む画面データを受信すると、前の画面に戻ってしまうことがある。

・印刷中に、マクロがアサインされているキーを押すと、“指定対象は使用されています”と表示される。

・ホットスポット機能を使用していると、マウスによるカーソル移動ができない。

［プリンタ機能関連］

・ローカルコピーを行うと、ハングアップすることがある。

・デュアルＣＰＵやハイパースレッドのマシンで印刷要求を行うと、フリーズやアプリケーションエラーが発生することがある。

・大量に印刷すると、ページ抜けや行ズレが発生することがある。

・プリンタセッションの終了に時間が掛かることがある。

［ＥＨＬＬＡＰＩ／ＰＣＳＡＰＩ機能関連］

・ＥＨＬＬＡＰＩで、ＮＯＲＥＳＥＴオプションを指定して「Ｓｅｎｄ　Ｋｅｙ（３）」を実行すると、入力禁止状態の取消ができなくなる。

［ＩＷＳ関連］

・マクロコマンド「ｗｉｎｄｏｗ　ｔｏｐ」で、全ウィンドウの前に配置できないことがある。

［制限事項］

［ＥＨＬＬＡＰＩ／ＰＣＳＡＰＩ機能関連］

・６４ビット用ＳＤＫの提供はありません。

以　上